

HP QuickTest Professional

ソフトウェア・バージョン : 10.00

インストール・ガイド

製造部品番号 : T6511-99022

ドキュメント発行日 : 2009 年 1 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日 : 2009 年 1 月 (英語版)



利用条件

保証

HP の製品およびサービスの保証は、かかる製品およびサービスに付属する明示的な保証の声明において定められている保証に限ります。本ドキュメントの内容は、追加の保証を構成するものではありません。HP は、本ドキュメントに技術的な間違いまたは編集上の間違い、あるいは欠落があった場合でも責任を負わないものとします。

本ドキュメントに含まれる情報は、事前の予告なく変更されることがあります。

制限事項

本コンピュータ・ソフトウェアは、機密性があります。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、HP の標準商用ライセンス条件に基づいて米国政府にライセンスされています。

サードパーティ Web サイト

HP は、補足情報の検索に役立つ外部サードパーティ Web サイトへのリンクを提供します。サイトの内容と利用の可否は予告なしに変更される場合があります。HP は、サイトの内容または利用の可否について、いかなる表明も保証も行いません。

著作権

© 1992 - 2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Intel®, Pentium® および Intel® Xeon™ は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Java™ は、Sun Microsystems, Inc. の米国商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows NT® および Windows XP® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle® は、カリフォルニア州レッドウッド市の Oracle Corporation の米国登録商標です。

Unix® は、The Open Group の登録商標です。

SlickEdit® は、SlickEdit Inc. の登録商標です。

文書の更新

本書のタイトル・ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア・バージョン番号
- ドキュメントが更新されるたびに更新されるドキュメント発行日
- 本バージョンのソフトウェアをリリースした日付を示す、ソフトウェア・リリース日付

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、
<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals> を参照します。

このサイトでは、HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID の登録は、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログイン・ページの [**New users - please register**] リンクをクリックしてください。

適切な製品サポート・サービスに登録すると、更新情報や最新情報も入手できます。詳細については HP の営業担当にお問い合わせください。

サポート

HP ソフトウェア・サポート Web サイトへは、support.openview.hp.com からアクセスできます。

HP ソフトウェアのオンライン・サポートでは、対話型の技術支援ツールに効率的にアクセスできます。サポートをご利用のお客様は、サポート・サイトを使うことで次のような利点があります。

- 参照したいナレッジ・ドキュメントの検索
- エンハンスメント要求およびサポート・ケースの登録とトラッキング
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの連絡先の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の参照
- ソフトウェアの他のお客様とのディスカッションに参加
- ソフトウェアのトレーニングの調査および登録

ほとんどのサポート・エリアは、HP Passport ユーザとしての登録およびサインインが必要です。また多くは、サポート契約も必要です。アクセス・レベルの詳細情報については、www.hp.com/managementsoftware/access_level を参照してください。

HP Passport ID の登録を申請するには、www.managementsoftware.hp.com/passport-registration.html（英語サイト）にアクセスしてください。

目次

はじめに	7
本書の構成	8
対象読者	8
QuickTest Professional オンライン・ドキュメント	9
その他のオンライン・リソース	11
第 1 章：インストールの前に	13
必要なアクセス許可の設定	14
以前のバージョンの QuickTest からアップグレードする場合の 留意点	15
第 2 章：QuickTest Professional のセットアップ	17
QuickTest Professional のライセンスの種類ごとの セットアップについて	18
QuickTest Professional のインストール	20
インストールの追加要件ユーティリティの使用	36
QuickTest Professional プログラム・フォルダの参照について	45
サイレント・インストールの設定	46
第 3 章：QuickTest Professional ライセンスの使用方法	55
QuickTest のライセンスの種類について	56
シート・ライセンス・キーの申請	57
シート・ライセンス・キーのインストール	60
コンカレント・ライセンスの使用	66
ライセンス情報の変更	71
LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定	73
コンピュータ・ライセンスの使用	75
QuickTest ライセンスの検証	88
コンカレント・ライセンスに関する問題のトラブルシューティング	93

第 4 章：QuickTest Professional の保守とアンインストール	99
QuickTest Professional の特定機能のインストールと アンインストール	100
QuickTest Professional のインストールの修復	102
QuickTest Professional のアンインストール	103
QuickTest の設定の保存と復元	105

はじめに

『QuickTest Professional インストール・ガイド』へようこそ。本書では、スタンドアロンのコンピュータへの QuickTest Professional のインストールとセットアップの方法について説明します。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ 本書の構成 (8 ページ)
- ▶ 対象読者 (8 ページ)
- ▶ QuickTest Professional オンライン・ドキュメント (9 ページ)
- ▶ その他のオンライン・リソース (11 ページ)

はじめに

本書の構成

本書は、次の各章で構成されています。

第 1 章 インストールの前に

QuickTest Professional のインストールおよび実行に必要なシステム要件およびアクセス権限を示します。

第 2 章 QuickTest Professional のセットアップ

ローカル・コンピュータへの QuickTest のインストール方法、およびサイレント・インストール手順のセットアップと実行方法を説明します。

第 3 章 QuickTest Professional ライセンスの使用方法

さまざまなライセンスの種類およびライセンスのインストール方法を説明します。また、コンピュータ・ライセンス・メカニズムの使用方法についても説明します。

第 4 章 QuickTest Professional の保守とアンインストール

QuickTest のアンインストール方法、特定の QuickTest 機能のアンインストールおよびインストール方法、既存の QuickTest の修復方法を説明します。

対象読者

本書は、QuickTest Professional のインストールおよびセットアップを行う必要があるユーザを対象としています。

本書の読者は、システム管理についてある程度の知識を持っている必要があります。

QuickTest Professional オンライン・ドキュメント

QuickTest Professional には、次のオンライン・ドキュメントがあります。

「**最初にお読みください**」では、QuickTest に関する最新ニュースと最新情報を入手できます。[スタート] > [プログラム] > [QuickTest Professional] > [Readme] を選択してください。

『**QuickTest Professional インストール・ガイド**』では、QuickTest のインストールおよびセット・アップ方法を説明します。[ヘルプ] > [印刷用ドキュメント] > [QuickTest Professional インストール ガイド] を選択してください。

『**QuickTest Professional チュートリアル**』では QuickTest の基本スキルを学びアプリケーションを対象とするテストを設計する方法を説明します。[ヘルプ] > [QuickTest Professional Tutorial] を選択してください。

「**製品の機能紹介ムービー**」(英語版)では、選択された QuickTest 機能の使用方法について、概要および手順ごとに説明します。[ヘルプ] > [製品の機能紹介ムービー] を選択してください。

「**印刷用ドキュメント**」では、Adobe の PDF (Portable Document Format) で全ドキュメントを表示します。オンライン・ドキュメントは Adobe Reader を使って読んだり印刷したりできます。Adobe Reader は、Adobe の Web サイト (<http://www.adobe.com/jp/>) からダウンロードできます。[ヘルプ] > [印刷用ドキュメント] を選択してください。

『**QuickTest Professional ヘルプ**』には次のドキュメントが含まれています。

- ▶ 『**QuickTest Professional の新情報**』では、最新バージョンの QuickTest でサポートされている環境、新機能および強化された点について説明します。
- ▶ 『**QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』では、QuickTest を使用してアプリケーションをテストする方法を説明します。
- ▶ 『**QuickTest Professional for Business Process Testing ユーザーズ・ガイド**』では、QuickTest を使用して、ビジネス・プロセス・テストングで使用する資産の作成および管理を行う方法を手順ごとに説明します。
- ▶ 『**QuickTest Professional アドイン・ガイド**』では、サポート対象の環境で QuickTest のアドインを使って作業する方法について説明し、環境に固有の情報をアドインごとに示しています。

- ▶ 『**QuickTest Object Model Reference**』(英語版)では、QuickTest テスト・オブジェクトの説明、各オブジェクトに関連したメソッドおよびプロパティの一覧、メソッドおよびプロパティの構文情報と使用例を示します。
- ▶ 『**QuickTest Advanced References**』(英語版)には、次の QuickTest COM および XML リファレンスに関するドキュメントが含まれています。
 - ▶ 『**QuickTest Automation**』(英語版)では、オートメーション・オブジェクト、メソッド、プロパティの構文、詳細な情報、および例を提供しています。また、QuickTest のオートメーション・スクリプトを記述する際の詳しい概要も含まれます。オートメーション・オブジェクト・モデルは、QuickTest のほぼすべての機能の制御が可能なオブジェクト、メソッド、プロパティを提供することによって、テスト管理の自動化を支援します。
 - ▶ 『**QuickTest Results Schema**』(英語版)では、テスト結果のカスタマイズに必要な情報を提供する、テスト結果の XML スキーマについて説明します。
 - ▶ 『**HQuickTest Object Schema**』(英語版)では、各種環境でテスト・オブジェクトのサポートを拡張するのに必要な情報を提供する、テスト・オブジェクトの XML スキーマについて説明しています。
 - ▶ 『**QuickTest Object Repository Schema**』(英語版)では、XML にエクスポートされたオブジェクト・リポジトリ・ファイルを編集するのに必要な情報を提供する、オブジェクト・リポジトリの XML スキーマについて説明しています。
 - ▶ 『**QuickTest Object Repository Automation**』(英語版)では、QuickTest の外部から QuickTest のオブジェクト・リポジトリやその内容を操作するのに必要な情報を提供する、オブジェクト・リポジトリ・オートメーション・オブジェクト・モデルについて説明します。
- ▶ 『**VBScript Reference**』には、Microsoft VBScript のドキュメント (VBScript, Script Runtime, および Windows Script Host など) が含まれています。

QuickTest Professional ヘルプにアクセスするには、[ヘルプ] > [QuickTest Professional ヘルプ] を選択します。選択した QuickTest ウィンドウおよびダイアログ・ボックスをクリックして F1 キーを押すことで QuickTest Professional ヘルプにアクセスすることもできます。また、QuickTest テスト・オブジェクト、メソッド、またはプロパティの上にカーソルを置いて F1 キーを押すことで、それらの説明、構文、および例を参照できます。

その他のオンライン・リソース

Mercury Tours サンプル Web サイト（英語版）は、本書で説明する多くの例の基礎となります。この Web サイトの URL は newtours.demoaut.com です。

HP ソフトウェア Web サイトでは、HP Software 製品に関する最新情報を提供します。新しいソフトウェアのリリース、セミナー、展示会、カスタマー・サポートなどの情報も含まれています。この Web サイトの URL は、www.hp.com/jp/hpsoftware です。

次のオンライン・リソースは QuickTest Professional の **[ヘルプ]** メニューから利用できます。

[トラブルシューティング & ナレッジ ベース] から、セルフ・ソルブ技術情報を検索できる HP ソフトウェア・サポート Web サイトのトラブルシューティング・ページにアクセスできます。**[ヘルプ]** > **[トラブルシューティング & ナレッジ ベース]** を選択します。この Web サイトの URL は、<http://h20230.www2.hp.com/troubleshooting.jsp> です。

[HP ソフトウェア サポート] からは、HP ソフトウェア・サポート Web サイトにアクセスします。このサイトで、セルフ・ソルブ技術情報を参照できます。また、英語版のサイトでは、ナレッジ・ベースの参照、独自の項目の追加、ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの書き込みや検索、パッチや更新されたドキュメントのダウンロードなどを行うこともできます。**[ヘルプ]** > **[HP ソフトウェア サポート]** を選択します。この Web サイトの URL は www.hp.com/go/hpsoftwaresupport です。

ほとんどのサポート・ページでは、HP Passport ユーザとして登録してログインすることを求められます。また、多くはサポート契約が必要です。

アクセス・レベルの詳細については、次を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Passport ユーザ ID の登録は、次の場所で行います。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

はじめに

第1章

インストールの前に

機能テストと回帰テストを自動化する高度なキーワード駆動テスト・ソリューション、HP QuickTest Professional へようこそ。QuickTest Professional は、HP Quality Center の一部です。本書では、QuickTest Professional をスタンドアロン・コンピュータへインストールするために必要なことをすべて説明します。

QuickTest Professional をインストールする前に、お使いのコンピュータがすべてのシステム要件に適合していることを確認してください。詳細については、『**HP QuickTest Professional 最初にお読みください**』を参照してください。サポートされているシステム構成の最新の一覧については、www.hp.com/jp/QTP_SysReq を参照してください。

QuickTest Professional 10.00 へは、QuickTest バージョン 9.5 からのみアップグレードできます。QuickTest 9.5 より前のバージョンをお使いの場合は、まず現在お使いの QuickTest バージョンと Quality Center の QuickTest アドインをアンインストールする必要があります。詳細については、15 ページ「以前のバージョンの QuickTest からアップグレードする場合の留意点」を参照してください。

QuickTest Professional のインストール実行中は、他のインストールを実行できません。また、QuickTest をインストールする前に、お使いのコンピュータが再起動を必要とする状態ではないことを確かめてください。コンピュータがそのような状態にある場合、インストールは実行されません。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ 必要なアクセス許可の設定 (14 ページ)
- ▶ 以前のバージョンの QuickTest からアップグレードする場合の留意点 (15 ページ)

必要なアクセス許可の設定

QuickTest Professional のインストールと実行には、下記のアクセス許可の設定が必要です。

QuickTest Professional のインストールに必要な権限と許可

QuickTest をインストールするコンピュータの管理者権限が必要です。QuickTest のアンインストール、インストールの修復と変更、パッチのインストールなど、他のインストール作業にも管理者権限が必要です。

場合によって、インストールの際にシステムの再起動が必要になることがあります。コンピュータの再起動が必要な場合は、再起動後のインストール処理にも管理者権限が必要です。

QuickTest Professional の実行に必要な権限と許可

次のファイル・システム権限が必要です。

- ▶ QuickTest のインストール先フォルダの下にあるすべてのファイルとフォルダの読み取りおよび書き込みの許可。
- ▶ Temp フォルダの読み取りおよび書き込みの許可。
- ▶ Windows フォルダおよび System フォルダの読み取り許可。

次のレジストリ・キー権限が必要です。

- ▶ **HKEY_CURRENT_USER\Software\Mercury Interactive** 以下のすべてのキーの読み取りおよび書き込みの許可。
- ▶ **HKEY_LOCAL_MACHINE** と **HKEY_CLASSES_ROOT** のすべてのキーに対する読み取りおよび値照会の許可。

Quality Center の使用に必要な許可

QuickTest と Quality Center を使用するには、次の許可が必要です。

- ▶ Quality Center キャッシュ・フォルダの読み取りおよび書き込みの許可。
- ▶ Quality Center 用 QuickTest アドインのインストール先フォルダに対する読み取りおよび書き込みの許可。

以前のバージョンの QuickTest からアップグレードする場合の留意点

- ▶ QuickTest Professional 10.00 へは、QuickTest バージョン 9.5 からのみアップグレードできます。QuickTest バージョン 9.5 は自動的にアンインストールされます。
- ▶ QuickTest 9.5 より前のバージョンから QuickTest Professional 10.00 にアップグレードする場合は、まず現在お使いの QuickTest バージョンと Quality Center の QuickTest アドインをアンインストールする必要があります。そうしないと、インストール処理が始まりません。アンインストールの最後にコンピュータを再起動したら、新しいバージョンとアドインをインストールします。

注： Save and Restore ユーティリティを使用して、古いバージョンの QuickTest をアンインストールする前に既存のカスタマイズ設定やレジストリ・キーを保存しておき、新しいバージョンをインストールした後にそれらを復元できます。詳細については、105 ページ「QuickTest の設定の保存と復元」を参照してください。

- ▶ QuickTest Professional バージョン 9.5 からアップグレードする場合、ライセンス・データは保持されます。しかし、アップグレード前にライセンスをインストールしていない場合は、インストール中に QuickTest Professional ライセンス・ウィザードを実行する必要があります。詳細については、31 ページの手順 11 を参照してください。
- ▶ バージョン 9.5 でインストールしたすべてのアドインは、アップグレード中に識別され、標準設定でインストールの機能選択ページでチェックされます。インストール中にアドインの追加と削除を行えます。
- ▶ QuickTest のメイン・ユーザ・インタフェースのレイアウト（各種表示枠のサイズや位置など）は、維持されます。
- ▶ [ツール] > [オプション] で定義されたすべての設定は保持されます。
- ▶ アップグレード前に QuickTest で最近開いたテストは、[ファイル] メニューに表示されます。
- ▶ Quality Center への接続設定はアップグレード処理では保持されません。必要であれば、インストール後に Quality Center に再接続してください。Quality Center アドインの最新バージョンをインストールするには、最新バージョンをインストールする前にアドインの以前のバージョンを手作業でアンインストールする必要があります。

第 2 章

QuickTest Professional のセットアップ

QuickTest Professional をインストールする場合は、使用する機能とアドインについて知っておく必要があります。インストール処理で QuickTest および Web, Visual Basic, ActiveX アドインが自動的にインストールされます。また、インストールする追加機能とアドインを選択できます。アドインの詳細については、『**HP QuickTest Professional アドイン・ガイド**』を参照してください。

また、インストールするライセンスの種類についても知っておく必要があります。**シート**・ライセンスは、インストールしたコンピュータにおいてのみ有効な無期限のライセンスです。**コンカレント**・ライセンスは、HP Functional Testing Concurrent License Server を持っている場合にのみ使用可能なセッションごとのライセンスです。詳細については、18 ページ「QuickTest Professional のライセンスの種類ごとのセットアップについて」を参照してください。

QuickTest Professional 10.00 ライセンスにより、QuickTest アドインを含むすべての QuickTest 機能が使用可能になります。QuickTest Professional と共に、リリースされているすべての QuickTest アドインの最新バージョンを使用できます。旧バージョンからアップグレードする場合は、以前にライセンスを取得していたアドインのみを使用できます。

サイレント・インストール（バックグラウンドでのインストール）をリモート・コンピュータで行うように QuickTest をセットアップすることもできます。

注： QuickTest Professional を開くと、アプリケーションに対する更新のサイレント・チェックがバックグラウンドで実行されます。QuickTest の更新が提供されているかどうか、いつでもオンラインで確認できます。確認するには、**[スタート]** > **[プログラム]** > **[QuickTest Professional]** > **[Check for Updates]** を選択します。確認後、ダウンロードしてインストール（任意）する更新を選択できます。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ QuickTest Professional のライセンスの種類ごとのセットアップについて (18 ページ)
- ▶ QuickTest Professional のインストール (20 ページ)
- ▶ インストールの追加要件ユーティリティの使用 (36 ページ)
- ▶ QuickTest Professional プログラム・フォルダの参照について (45 ページ)
- ▶ サイレント・インストールの設定 (46 ページ)

QuickTest Professional のライセンスの種類ごとのセットアップについて

QuickTest Professional のインストール、およびライセンスを有効化する基本的な手順は、ライセンスの種類（シート、および コンカレント）によって異なります。本節では、それぞれの種類のライセンスに必要なセットアップ手順の概要と、各手順に対する詳細な情報を示します。

シート・ライセンスを使った QuickTest Professional のセットアップ

本項では、シート・ライセンスを使った QuickTest Professional のセットアップ手順の概要を示します。シート・ライセンスは、インストールしたコンピュータにのみ有効な無期限のライセンスです。シート・ライセンスには 14 日間の評価期間があり、この期間内に HP に連絡して永久シート・ライセンス・キーを取得する必要があります。

注：Windows 2000 サーバ、Windows 2003 サーバ、および Windows 2008 サーバについては、シート・ライセンスを使用できません。

シート・ライセンスを使って QuickTest Professional をセットアップするには、次の手順を実行します。

- 1 QuickTest Professional セットアップ・プログラムを実行します。[インストールの追加要件] 画面で [ライセンス インストール ウィザードの実行] を選択します。次に、[ライセンスの種類] 画面で [シート ライセンス] を選択します。

詳細については、32 ページの「QuickTest Professional のインストール」の手順 13 を参照してください。

- 2 QuickTest Professional を実行します。表示された警告メッセージで [インストール] をクリックし、HP からのシート・ライセンス・キーを申請します。詳細については 57 ページ「シート・ライセンス・キーの申請」を参照してください。
- 3 HP からライセンス・キーを受け取ったら、ライセンス・インストール・ウィザードを実行して、ライセンス・キーをインストールします。詳細については、60 ページ「シート・ライセンス・キーのインストール」を参照してください。

コンカレント・ライセンスによる QuickTest Professional のセットアップ

本項では、コンカレント・ライセンスを使った QuickTest Professional のセットアップ手順の概要を示します。コンカレント・ライセンスは、HP Functional Testing Concurrent License Server を持っている場合にのみ使用可能なセッションごとのライセンスです。サーバにアクセスできれば、コンカレント・ライセンスを無料で使用できます。

コンカレント・ライセンスを使って QuickTest Professional をセットアップするには、次の手順を実行します。

- 1 HP Functional Testing Concurrent License Server をネットワーク・コンピュータにインストールして、ライセンスを有効にします。詳細については、『**HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド**』を参照してください。このガイド (**MerLicSvr.pdf**) は、HP Functional Testing Concurrent License Server がインストールされているコンピュータにインストールされます。
- 2 各クライアント・コンピュータで QuickTest Professional セットアップ・プログラムを実行します。[ライセンスの種類] 画面で [コンカレント ライセンス] を選択します。詳細については、32 ページの「QuickTest Professional のインストール」の手順 13 を参照してください。
- 3 QuickTest Professional の使用を開始します。QuickTest Professional が開くと、指定されたライセンス・サーバを自動的に検索し、これに接続します。

注：コンピュータがライセンス・サーバを見つけられず、接続できない場合は、LSHOST または LSFORCEHOST 変数の設定が必要になることがあります。詳細については、73 ページ「LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定」を参照してください。

QuickTest Professional のインストール

QuickTest Professional の DVD には、インストールのセットアップ・プログラムが含まれています。

QuickTest Professional をインストールするには、管理者権限でログインする必要があります。さらに、ネットワーク・ドライブではなく、ローカル・ドライブに QuickTest Professional をインストールする必要があります。

QuickTest Professional 10.00 のインストールに関する留意点

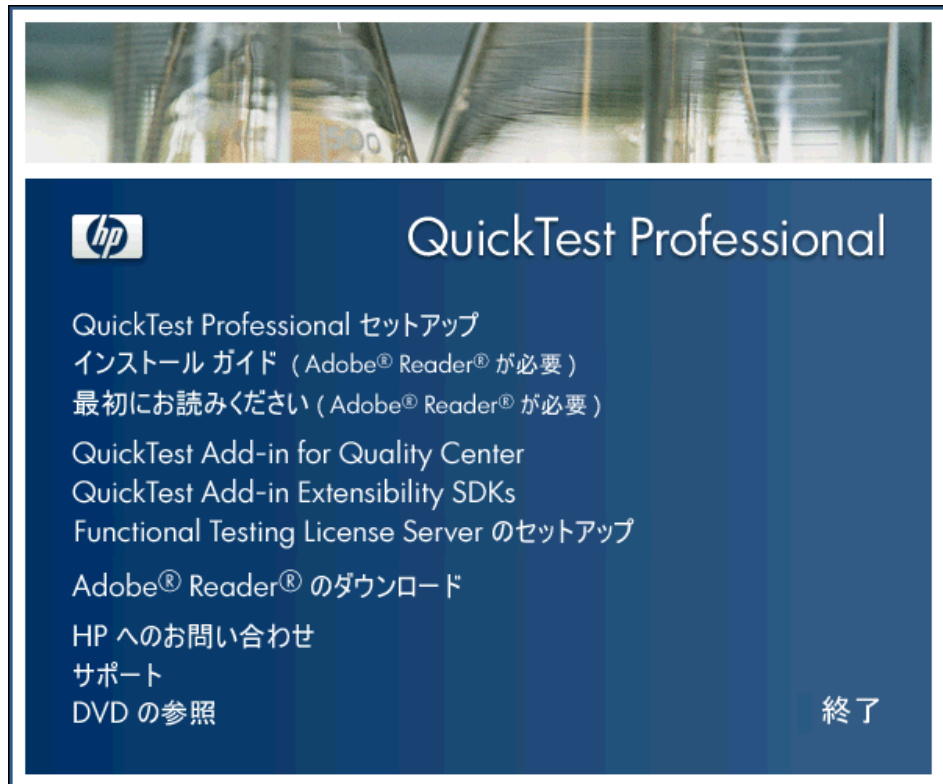
- ▶ QuickTest Professional バージョン 9.2 よりも前のバージョンから QuickTest Professional 10.00 にアップグレードする場合は、最初に現在の QuickTest バージョンと Quality Center 用の QuickTest アドインをアンインストールする必要があります。そうしないと、インストール・プロセスが始まりません。アンインストールの最後にコンピュータを再起動したら、新しいバージョンとアドインをインストールします。Save and Restore ユーティリティを使用して、古いバージョンの QuickTest をアンインストールする前に既存のカスタマイズ設定やレジストリ・キーを保存しておき、新しいバージョンをインストールした後にそれらを復元できます。詳細については、105 ページ「QuickTest の設定の保存と復元」を参照してください。
- ▶ QuickTest Professional バージョン 9.5 から QuickTest Professional 10.00 アップグレードする場合は、インストール・ウィザードによって自動的に QuickTest の以前のバージョンがアップグレードされ、QuickTest Professional 10.00 がインストールされます。アップグレードを行っても、[オプション] の設定やウィンドウのレイアウト、およびすべてのテストなどの既存の設定を保持されます。

- ▶ Astra QuickTest および Astra LoadTest, あるいはそのどちらかがインストールされている場合は, QuickTest Professional をインストールする前にそれらをアンインストールしておく必要があります。QuickTest Professional をインストールした後, その他の HP 製品を再インストールできます。
- ▶ インストール処理中に [HP QuickTest Professional 10.00 使用中のファイル] ダイアログ・ボックスが表示された場合は, 次の手順を実行します。
 - ▶ ダイアログ・ボックスに一覧表示されているアプリケーションを閉じて [再試行] をクリックします。
 - ▶ [HP QuickTest Professional 10.00 使用中のファイル] ダイアログ・ボックスが再び表示されたら, [終了] ボタンをクリックして, コンピュータを再起動します。コンピュータの再起動後はどのアプリケーションも開かないでください。QuickTest Professional セットアップ・プログラムを再度実行します。
 - ▶ 再起動中に [HP QuickTest Professional 10.00 使用中のファイル] ダイアログ・ボックスに開いているアプリケーションとして Explorer が表示された場合は, [続行] をクリックします。プロンプトが表示されたら, インストールの最後にコンピュータを再起動します。

QuickTest Professional をインストールするには, 次の手順を実行します。

- 1 QuickTest Professional のインスタンスをすべて閉じます。その他のアプリケーションもすべて閉じることを推奨します。
- 2 DVD ドライブに インストール用 DVD を挿入します。DVD を挿入した DVD ドライブがローカル・コンピュータのドライブである場合, [QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウが開きます。

ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、DVD のルート・フォルダにある **setup.exe** をダブルクリックします。[セットアップ] ウィンドウが開きます。



- ▶ 『**HP QuickTest Professional インストール・ガイド**』の PDF (印刷用) ファイルを開くには、[**インストール ガイド**] をクリックします。Adobe Reader をダウンロードする場合は、[**Adobe Reader のダウンロード**] をクリックします。
- ▶ Readme ファイルを表示する場合は、[**最初にお読みください**] をクリックします。Adobe Reader をダウンロードする場合は、[**Adobe Reader のダウンロード**] をクリックします。
- ▶ Quality Center 用 **QuickTest アドイン** をインストールしない場合は、Quality Center で次の QuickTest 操作のみ実行できます。
 - ▶ テストのリモートからの実行

▶ テスト実行パラメータの設定

Quality Center で QuickTest 資産に対してその他の操作を行う場合は、**Quality Center** 用の **QuickTest** アドインをインストールする必要があります。たとえば、アドインにより、次のことが行えます。

- ▶ Quality Center からテストおよびコンポーネントのスクリプトを表示します。
- ▶ Quality Center の [テスト結果] ウィンドウに実行結果を表示します。
- ▶ Quality Center から新規テストおよびコンポーネントを作成します。
- ▶ QuickTest のユーザ・インタフェース要素が含まれる Quality Center でその他の操作を実行します。

コンピュータにインストールされている Quality Center クライアントでこれらの機能を有効にするには、[**QuickTest Add-in for Quality Center**] をクリックします。

Quality Center の QuickTest アドインの詳細またはアドインの最新バージョンのダウンロードについては、Quality Center で [QuickTest Professional アドイン] 画面 ([ヘルプ] > [アドイン ページ] > [その他の Quality Center アドイン] > [QuickTest Professional アドイン]) を参照してください。

注：QuickTest Professional 10.00 は、Quality Center 9.0 以降との統合をサポートします。Business Process Testing では、QuickTest Professional 10.00 は Quality Center 10.00 以降との統合のみサポートします。Quality Center アドインは Quality Center の現在サポートされているすべてのバージョンにインストールできます。サポートされているバージョンの詳細については、『**HP QuickTest Professional 最初にお読みください**』を参照してください。

- ▶ Web, Java, または .NET Windows フォームに対するアドイン拡張性 SDK のサポートをインストールするには、[**QuickTest Add-in Extensibility SDKs**] をクリックし、必要なオプションを選択します。

- ▶ 以前のバージョンの QuickTest の **QuickTest Plus Toolkit** で使用できたユーティリティ、機能、および情報は、QuickTest Professional のアプリケーション本体に組み込まれています。次のものが含まれています。
- ▶ コードおよび SDK サンプル。QuickTest カスタム・インストール時に、[機能の選択] 画面で [**サンプル**] を選択するとインストールできます。詳細については、28 ページの手順 8 を参照してください。
- ▶ オブジェクト・リポジトリ結合機能。[QuickTest オブジェクトリポジトリ結合ツール] から使用できます。
- ▶ 外部アクション呼び出しの変更ユーティリティ。QuickTest の [欠落リソース] 表示枠内で処理されます。
- ▶ ブラウザ・コントロール登録ユーティリティ。
- ▶ ライセンス検証ユーティリティ。

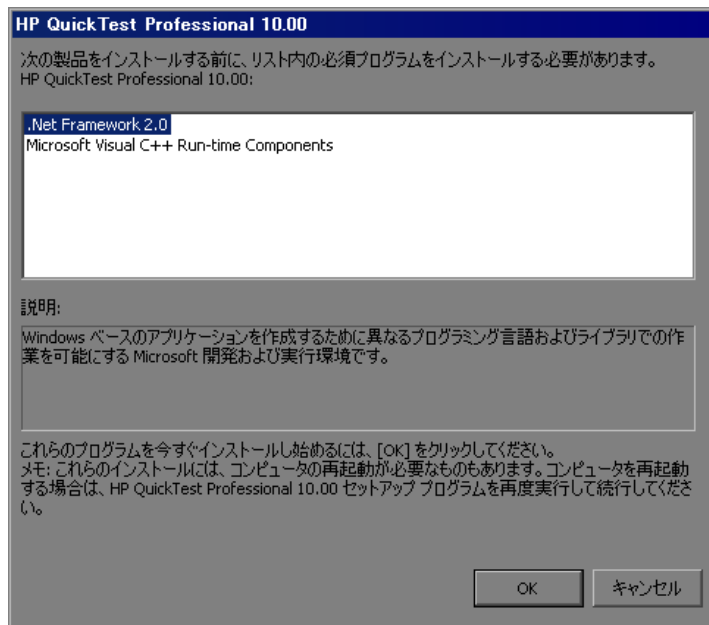
これらのユーティリティと機能、およびよくある質問への回答の詳細については、『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』および **HP ソフトウェア・セルフ・ソルブ技術情報** (<http://www.hp.com/go/hpsupport>) を参照してください。

- ▶ HP Functional Testing Concurrent License Server をインストールする場合、またはサーバにコンカレント・ライセンスをインストールする場合は、[**Functional Testing Concurrent License Server のセットアップ**] をクリックし、必要なオプションを選択します。表示されるダイアログ・ボックスから『**HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド**』を開くこともできます。
- ▶ Adobe Reader をダウンロードする場合は、[**Adobe Reader のダウンロード**] をクリックします。
- ▶ HP Web サイトで問い合わせ情報のページ (<http://welcome.hp.com/country/jp/ja/prodserv/software.html>) を開くには、[**HP へのお問い合わせ**] をクリックします。
- ▶ HP Software Support Web site (<http://www.hp.com/go/hpsupport>) を開くには、[**サポート**] をクリックします。
- ▶ QuickTest Professional の DVD の内容を確認するには、[**DVD の参照**] をクリックします。
- ▶ [QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウを終了するには、[**終了**] をクリックします。

- 3 [QuickTest Professional セットアップ] をクリックして、QuickTest Professional セットアップ・プログラムを開始します。

バージョン 9.5 からアップグレードする場合は、以前のバージョンの QuickTest がインストールされていることを通知するメッセージが表示され、セットアップ・プログラムは、インストールを続行する前に、以前の設定およびテストを保存してから以前のバージョンをアップグレードします。アップグレード処理によって、QuickTest のウィンドウ・レイアウト、[オプション] ダイアログ・ボックスおよび [設定] ダイアログ・ボックスのすべての設定など、すべての設定が保存されます。さらに、105 ページ「QuickTest の設定の保存と復元」の「保存されたファイルと設定」の項で一覧表示されているファイルと設定を保存します。[OK] をクリックします。

- 4 QuickTest では、QuickTest をインストールする前に .NET Framework 2.0 などの特定のソフトウェアがインストールされている必要があります。セットアップによって、前提条件のソフトウェアがコンピュータにインストールされていないことが検出された場合は、次の画面が開きます。

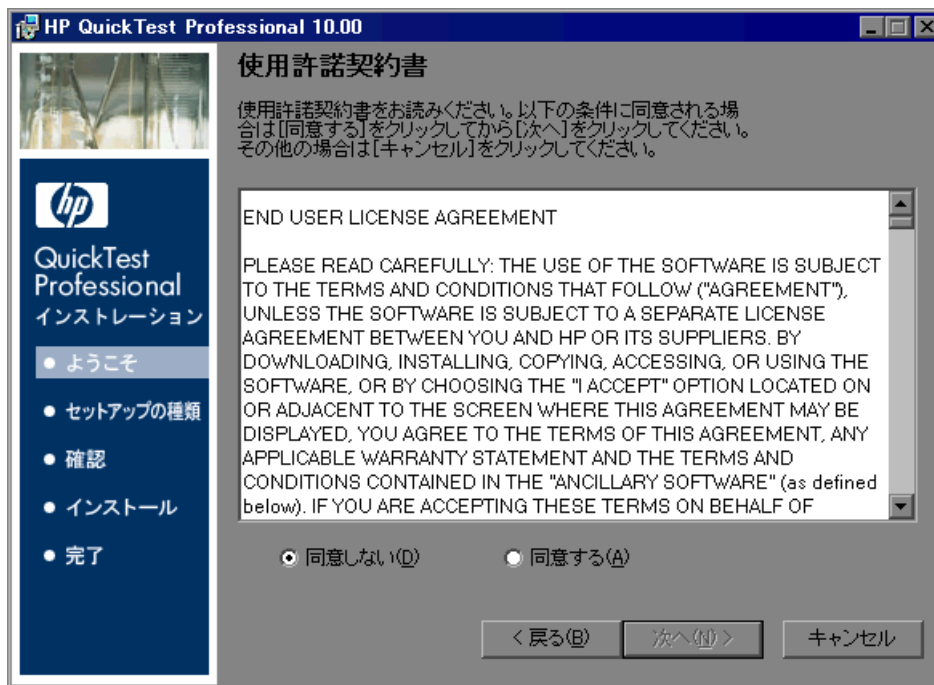


ヒント: リスト内の項目を選択するとプログラムの説明が表示されます。

[OK] をクリックし、画面の指示に従ってリストされたソフトウェアをインストールした後、QuickTest のインストールを続けます。[キャンセル] をクリックした場合、前提条件のソフトウェアがなければ QuickTest をインストールできないため、セットアップは停止します。

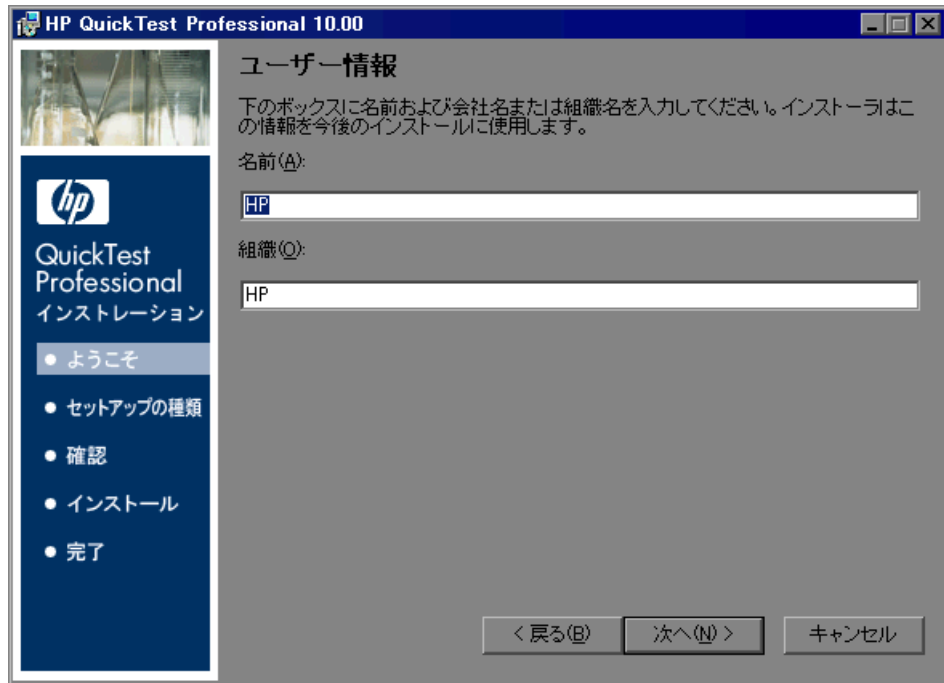
場合によっては、前提条件のソフトウェアをインストールした後にコンピュータの再起動を求められることがあります。コンピュータの再起動後にインストールを続行するには、セットアップ・プログラムを再実行してください。

- 5 [HP QuickTest Professional 10.00 セットアップ ウィザードへようこそ] が開きます。[次へ] をクリックして先に進みます。
- 6 [使用許諾契約書] 画面が開きます。契約内容を読みます。



QuickTest Professional をインストールするには、[同意する] を選択し、[次へ] をクリックしてライセンス契約の条項に同意する必要があります。

- 7 [ユーザー情報] 画面で、自分の名前と組織名を入力します。



- [次へ] をクリックして先に進みます。

- 8 [カスタム セットアップ] 画面で、インストールする QuickTest コンポーネントおよびアドインを選択します。



注： QuickTest アドインをロードすると、対応する環境で QuickTest の作業ができるようになります。必要なアドインは、QuickTest Professional のインストール時にインストールできます。また後からでも、インストール・プログラムをもう一度を実行してインストールできます。QuickTest を開くとき、QuickTest Professional アドイン・マネージャのダイアログ・ボックスを使って、インストール済みのアドインからロードするものを選択します。アドイン・マネージャの詳細については、『HP QuickTest Professional アドイン・ガイド』を参照してください。

リスト内の項目を選択すると、機能の説明や、機能に必要なドライブの容量を表示できます。

アイコンをクリックしてメニューを表示し、機能をコンピュータにインストールする方法を選択します。機能に応じて次のオプションを選択できます。



▶ **[ローカルハードドライブにインストールします。]** 選択した機能をローカル・ハード・ディスク・ドライブにインストールします。選択した機能のサブ機能はインストールされません。



▶ **[機能全体をローカルハードドライブにインストールします。]** 選択した機能全体とその下位機能をローカル・ハード・ディスク・ドライブにインストールします。



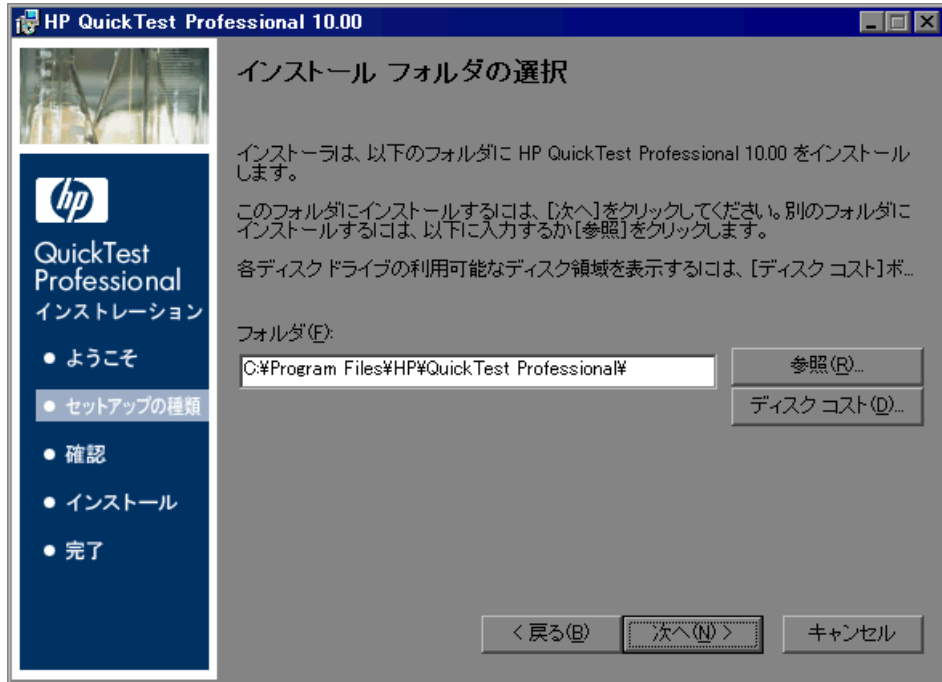
▶ **[機能全体をインストールしません。]** 機能をインストールから除外し、QuickTest で使用できないようにします。

注：

- ▶ **QuickTest Professional とそのコア・コンポーネント、およびテスト結果ビューワ**のオプションは、選択解除できません。
- ▶ QuickTest Professional Java アドイン、および WinRunner Java と Oracle アドイン 7.6 のいずれかあるいは両方を、同じコンピュータで使用するには、WinRunner 7.6 用の Java/Oracle パッチ (QuickTest Professional インストール DVD の **WR76DualAgentPatch** フォルダにある **WR76Patch.exe**) をインストールする必要があります。

[次へ] をクリックします。**バージョン 9.5** からアップグレードしている場合は、アップグレードのインストールによって自動的に QuickTest Professional 10.00 が、以前のバージョンの QuickTest がインストールされていたのと同じフォルダに自動的にインストールされます。手順 10 に進みます。

- 9 [インストール フォルダの選択] 画面で、QuickTest Professional をインストールする場所を選択します。

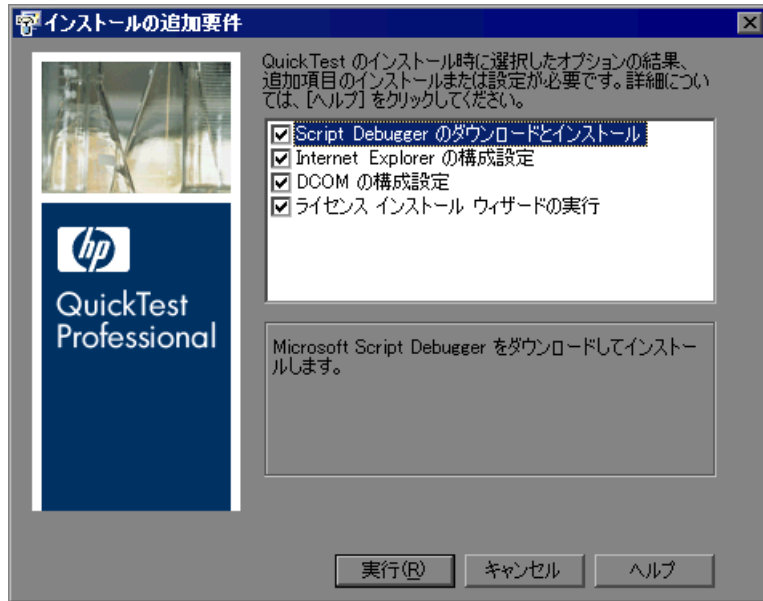


- ▶ 表示されているパスと異なる場所を選択するには、[参照] をクリックしてフォルダを選択し、続いて [OK] をクリックします。UNC パスではない、割り当て済みのドライブ内のフォルダを指定します。インストール先フォルダが存在しない場合は、フォルダを作成するかどうか尋ねられます。
- ▶ 必要容量および割り当て済みの各ドライブで使用可能な容量を表示するには、[ディスクコスト] をクリックします。

QuickTest Professional をインストールするドライブにハード・ディスクの空き領域が十分であることを確認します。詳細については、『**HP QuickTest Professional 最初にお読みください**』に記載されているシステム要件を参照してください。

[次へ] をクリックして先に進みます。

- 10 [インストールの確認] 画面が開きます。[次へ] をクリックして先に進みます。インストールが始まります。[HP QuickTest Professional 10.00 をインストールします] 画面に、インストールの進行状況が表示されます。
- 11 インストールが完了したら、[完了] をクリックします。
[インストールの追加要件] 画面が開きます。

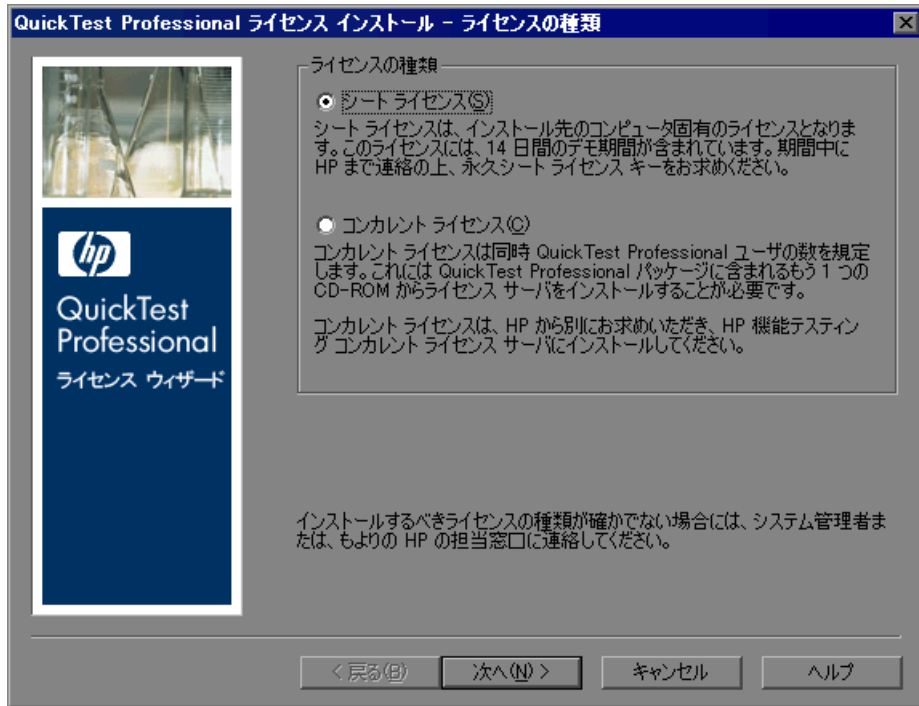


[インストールの追加要件] 画面では、Internet Explorer および DCOM の設定や、ライセンス・ウィザードの実行を選択できるほか、インストール時に選択したオプションに応じて、QuickTest を使用するためにインストールまたは設定する必要のある前提条件のソフトウェアが表示されます。

必要なインストール・オプションを選択します。これらのオプションの詳細については、36 ページ「インストールの追加要件ユーティリティの使用」を参照してください。

ヒント： オプション名を選択すると機能の説明が表示されます。

- 12 選択項目をインストールまたは設定するには、[インストールの追加要件] 画面で **実行** をクリックします。
- 13 **ライセンス・インストール・ウィザード**の実行を選択した場合は、[QuickTest Professional ライセンス インストール - ライセンスの種類] 画面が開きます。



ライセンスの種類を選択します（さまざまなライセンスの種類のセットアップに必要なプロセスの詳細については、18 ページ「QuickTest Professional のライセンスの種類ごとのセットアップについて」を参照してください。ライセンスの使用の詳細については、55 ページ「QuickTest Professional ライセンスの使用方法」を参照してください）。

- ▶ **[シート ライセンス]**：このコンピュータ用に作成されたライセンスを使用します。

シート・ライセンスは、インストールしたコンピュータにのみ有効な無期限のライセンスです。このオプションには 14 日の評価期間も含まれています。永久シート・ライセンス・キーは、この期間内に HP Webware License Key Delivery Service で申請してください。シート・ライセンス・キーを受け取ってから有効化すると、無期限で QuickTest Professional を使用できます。詳細については、57 ページ「シート・ライセンス・キーの申請」を参照してください。

[シート ライセンス] を選択した場合は、34 ページの手順 14 に進みます。

- ▶ **[コンカレント ライセンス]**：ネットワーク・ベースのライセンスを使用します。

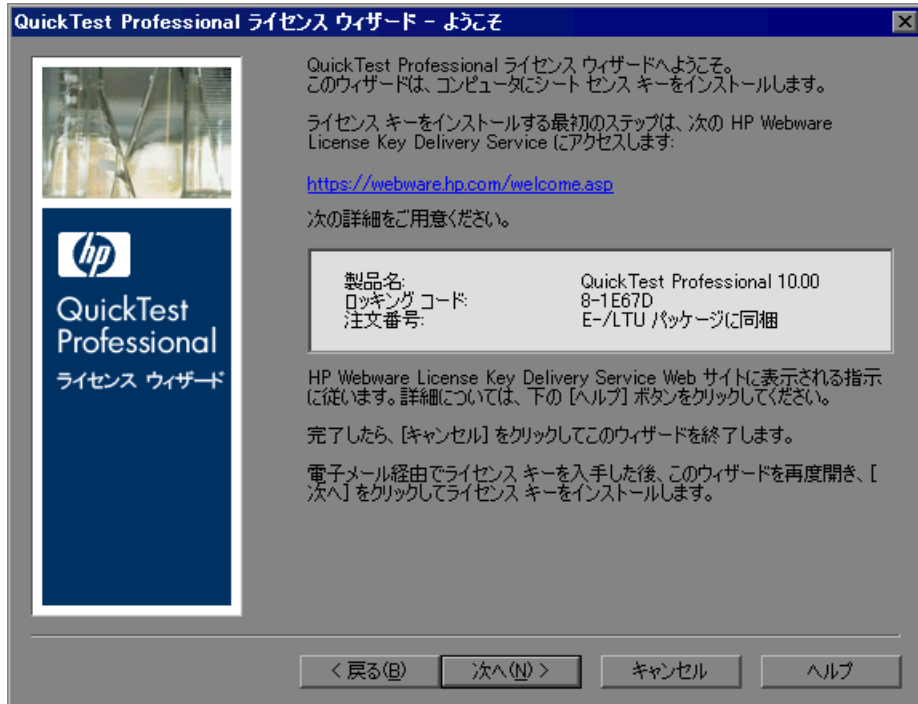
ネットワーク上のライセンス・サーバによって QuickTest Professional のコンカレント・ユーザの数が規制されます。コンカレント・ライセンスを使用するには、ローカル・ネットワークにコンカレント・ライセンス・サーバがインストールされていて、ライセンス・サーバに現在使用されていないライセンスが少なくとも 1 つ必要です。

[次へ] をクリックすると **[ライセンスのインストーラー - コンカレント ライセンス サーバ]** ダイアログ・ボックスが開きます。接続先のコンカレント・ライセンス・サーバの名前がわかっている場合は、その名前をテキスト・ボックスに指定できます。**[接続をチェック]** をクリックして、使用しているネットワーク経由からライセンス・サーバにアクセスできるかどうかを確かめることができます。

このオプションを選択してコンカレント・ライセンス・サーバを指定しなければ、QuickTest を開いたときに QuickTest がサーバの検索を試みます。

詳細については、『**HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド**』を参照してください。

- 14 シート・ライセンスを使用して QuickTest をインストールした場合は、
[QuickTest Professional ライセンスのインストール - ようこそ] 画面が開きます。

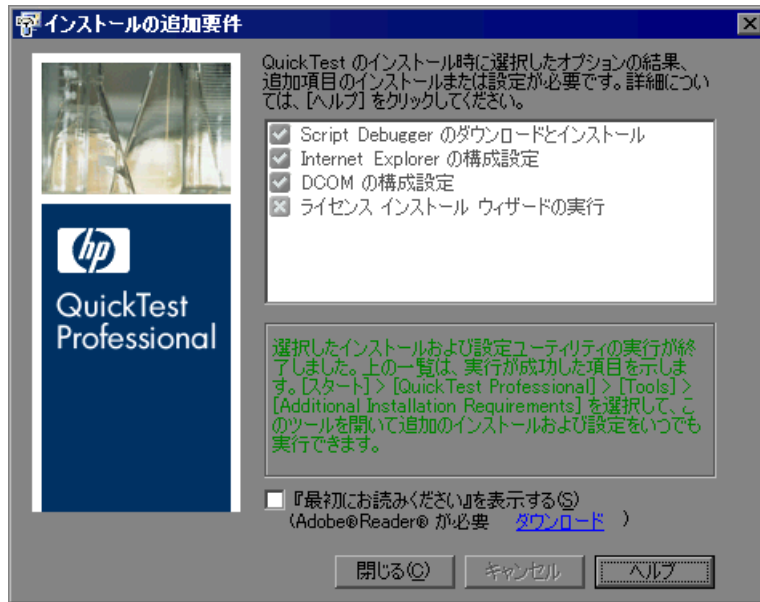


シート・ライセンス・キー・コードを持っている場合は、63 ページの手順 3 に進んでシート・ライセンスをインストールします。

ライセンス・キーを持っていない場合は、表示されるお使いのコンピュータのロッキング・コードをメモしてください。ライセンス・キーの申請に必要です。ライセンス・キーを申請するには、**HP Webware License Key Delivery Service** の [QuickTest Professional License Installation - Welcome] 画面のリンクをクリックします。59 ページ「HP Webware License Key Delivery Service へのライセンス・キーの申請」に示す指示に従ってください。

- 15 インストールは、[インストールの追加要件] 画面で選択したオプションをインストールしながら続行されます。これらのオプションがインストールされ、お使いのコンピュータで設定されたら、画面が再び開きます。

正常にインストールまたは設定されたオプションの横に、チェックマークが表示されます。



ヒント：インストールの追加要件ユーティリティは、[スタート] > [プログラム] > [QuickTest Professional] > [Tools] > [Additional Installation Requirements] を選択していつでも実行できます。

- 16 インストールの最後に「HP QuickTest Professional 最初にお読みください」を開く場合は、[『最初にお読みください』を表示する] をクリックします。Readme ファイルを参照するには、Adobe Reader をインストールしておく必要があります。お使いのコンピュータに Adobe Reader がインストールされている場合は、このチェック・ボックスは標準設定で選択されています。インストールされていない場合は、このチェック・ボックスは選択されていません。[ダウンロード] リンクをクリックして、Adobe Reader をダウンロードしてください。

17 [閉じる] をクリックします。[インストールの完了] 画面が開きます。

18 [完了] をクリックします。

注：場合によっては、QuickTest をインストールした後にコンピュータの再起動を求められることがあります。再起動を求められた場合は、できるだけ速やかにコンピュータを再起動することをお勧めします。システムの再起動を先延ばしにすると、QuickTest に予期しない動きが生じる可能性があります。

インストールの追加要件ユーティリティの使用

QuickTest のインストール後、QuickTest を使用するために、前提条件のソフトウェアをいくつかインストールして設定しておく必要があります。また、QuickTest Professional のデバッグ機能やリモート・アクセス機能を活用できるように、Internet Explorer および DCOM について特定の設定を行う必要があります。

[インストールの追加要件] 画面には、QuickTest のインストール時またはインストールの変更時に選択したオプションに応じて、QuickTest を使用するためにインストールまたは設定しておく必要のある、前提条件のソフトウェアがすべて表示されます。詳細については、37 ページ「インストールの追加前提条件」を参照してください。

注：必要に応じて、Internet Explorer および DCOM について手動で設定を行うことができます。

インストールの追加要件ユーティリティを使用して、QuickTest のインストール時に、必要な設定を自動的に行うことができるほか、ライセンス・インストール・ウィザードと Microsoft Debugger のインストールを実行できます。

- ▶ [インストールの追加要件] ダイアログ・ボックスでオプション名を選択すると、機能の説明が表示されます。

- ▶ 必要なオプションのチェック・ボックスを1つまたは複数選択し、**[実行]** をクリックします。

インストールの追加要件ユーティリティは、**[スタート]** > **[プログラム]** > **[QuickTest Professional]** > **[Tools]** > **[Additional Installation Requirements]** を選択していつでも実行できます。このダイアログ・ボックスでは、Internet Explorer および DCOM の設定や、ライセンス・ウィザードの実行を選択できるほか、QuickTest を使用するためにさらにインストールする必要のある前提条件のソフトウェアが表示されます。

インストールの追加前提条件

[インストールの追加要件] ダイアログ・ボックスに一覧表示される、インストールに必要な追加要件には、QuickTest のインストール時またはインストールの変更時に選択したオプションに応じて、次のものが含まれる可能性があります。

- ▶ **[Microsoft WSE 3.0 Runtime]** : 発行されている Web サービス仕様に基づいてアプリケーションを実行するための基盤を提供します。この項目が表示されるのは、この項目がその時点でまだインストールされておらず、かつ、Web サービス・アドインがインストールされている場合のみです。
- ▶ **[Microsoft SOAP Toolkit 3.0 のインストール]** : Web サービス機能を COM コンポーネントおよびアプリケーションに提供します。この項目が表示されるのは、この項目がその時点でまだインストールされておらず、かつ、Web サービス・アドインがインストールされている場合のみです。
- ▶ **[Script Debugger のダウンロードとインストール]** : QuickTest でテスト実行時に使用するデバッグ環境を提供します。この項目が表示されるのは、この項目がその時点でまだインストールされていない場合のみです。
- ▶ **[ターミナル エミュレータ ウィザードの実行]** : このウィザードを使用して、ターミナル・エミュレータの識別設定を行うことができます。この項目が表示されるのは、ターミナルエミュレータ (TE) アドインがインストールされている場合のみです。
- ▶ **[Stingray ウィザードの実行]** : このウィザードを使用して、Stingray アプリケーションと連携するよう QuickTest を設定できます。この項目が表示されるのは、Stingray アドインがインストールされている場合のみです。

このほか、インストールの追加要件ユーティリティでは次の操作も実行できます。

- ▶ **[Internet Explorer の構成設定]**：このチェック・ボックスを選択すると、Internet Explorer のオプションが自動的に設定され、テスト実行時に QuickTest で Microsoft Script Debugger アプリケーションを使用できるようになります。
これらのオプションは、QuickTest の実行前に手動で設定できます。Internet Explorer で、[ツール] > [インターネット オプション] > [詳細設定] を選択します。そして、[スクリプト デバッグを使用しない] および [サードパーティ製のブラウザ拡張を有効にする] を選択します。

- ▶ **[DCOM の構成設定]**：このチェック・ボックスを選択すると、DCOM のアクセス許可とセキュリティ設定が自動的に変更され、QuickTest コンピュータのファイアウォールで、ある特定のポートが開放されます。

これらの変更が必要になるのは、QuickTest テストを Quality Center からリモート実行する場合、かつ、QuickTest を Windows XP Service Pack 2 またはそれ以降、Windows 2003 Server、あるいは Windows Vista で実行する場合のみです。

これらのオプションを自動的に設定するよう選択した場合に QuickTest によって加えられる変更の詳細については、39 ページ「DCOM のアクセス許可変更による QuickTest のリモート実行の有効化」で説明している手順を参照してください。

QuickTest のインストール中にリモート実行オプションを自動的に設定しない場合は、Quality Center から QuickTest のテストをリモートで実行する前に、次の作業が可能です。

- ▶ 後で、[スタート] > [プログラム] > [QuickTest Professional] > [Tools] > [Additional Installation Requirements] を選択して、インストールの追加要件ユーティリティを実行できます。
- ▶ 必要な変更を手動で行う。手動での変更の詳細については、39 ページ「DCOM のアクセス許可変更による QuickTest のリモート実行の有効化」を参照してください。
- ▶ 必要な変更を自動で行う。リモート・エージェント (< **QuickTest Professional インストール** > %bin%\AQTRmtAgent.exe) を後で実行して自動的に変更できます。

注： Windows XP Service Pack 2 以降、Windows 2003 Server、あるいは Windows Vista における DCOM のセキュリティの変更に関する質問は、マイクロソフトのサポートにお問い合わせください。

- ▶ **[ライセンス インストール ウィザードの実行]**：このチェック・ボックスを選択すると、QuickTest Professional ライセンス・ウィザードが実行されます。

注：このオプションは、QuickTest Professional バージョン 9.5 からアップグレードするときに自動的に選択されません。ライセンス・データが保持されるためです。しかし、アップグレード前にライセンスをインストールしていない場合は、このチェック・ボックスを選択して QuickTest Professional ライセンス・ウィザードを実行する必要があります。

DCOM のアクセス許可変更による QuickTest のリモート実行の有効化

本項では、DCOM のアクセス許可を手作業で変更してファイアウォールのポートを開き、QuickTest のリモート実行を可能にする方法を説明します。これらの変更は、QuickTest を Windows XP Service Pack 2、Windows 2003 Server Service Pack 1 (またはそれ以降)、あるいは Windows Vista 上で実行している場合にのみ必要です。

QuickTest のインストール中にこれらの変更を自動的に行うように選択した場合、手作業によるこれらの変更を行う必要はありません。QuickTest テストを Quality Center からリモート実行する予定がない場合、手作業によるこれらの変更は必要ありません。

注：本項で説明するセキュリティ設定の変更は、システム管理者が行うことをお勧めします。Windows XP Service Pack 2、Windows 2003 Server Service Pack 1 (またはそれ以降) あるいは Windows Vista における DCOM のセキュリティの変更に関する質問は、マイクロソフトのサポートにお問い合わせください。

ヒント：HP カスタマー・サポートのナレッジ・ベースに、これらの変更の実行を支援するユーティリティがあります。詳細については、HP ソフトウェア・セルフ・ソルブ技術情報 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM196144>) を参照し、製品 ID 43245 を検索してください。ナレッジ・ベース領域では、HP Passport ユーザとして登録してログインすることを求められます。

次の手順に加えて、テストをリモート実行する前に QuickTest [オプション] ダイアログ・ボックスの [実行] タブで、**[他の HP 製品でテストおよびコンポーネントを実行可能にする]** オプションが選択されていることを確認する必要があります。詳細については、『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

Windows にリモート・ユーザを認証させるには、次の手順を実行します。

- 1 両方のコンピュータを同じドメインに追加します。
- 2 両方のマシンにログインするドメイン・ユーザを、QuickTest コンピュータの Local Administrators グループに追加します。こうすることで Windows は、DCOM オブジェクトを対象とするテストを行うリモート・ユーザを認証できるようになります。

DCOM 用にポート 135 を通過できるように Windows のファイアウォールを設定するには、次の手順を実行します。

注： Windows XP Service Pack 2, Windows 2003 Server あるいは Windows Vista にインストールされているファイアウォールを無効にしている場合、次の手順で説明するように DCOM 用にポート 135 を開く必要はありません。

- 1 QuickTest コンピュータ上で、[スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [Windows ファイアウォール] を選択します。[Windows ファイアウォール] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [例外] タブを選択します。
- 3 [プログラムの追加] をクリックします。[プログラムの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 [Remote Agent] (< **QuickTest Professional のインストール先** > %bin%\AQTRmtAgent.exe) を選択または参照して、[OK] をクリックします。

注： 前述の説明のように [Remote Agent] を例外として設定しないと、テストのリモート実行中に Windows セキュリティ警告が表示されます。この問題を解決するには [ブロックを解除する] をクリックします。次回から自動テストをリモート実行したときに警告が表示されなくなります。

- 5 **[OK]** をクリックし、**[Windows ファイアウォール]** ダイアログ・ボックスを閉じます。

注： 詳細については、下記のように使用されるサービス ポートの一覧を参照してください。

http://www.microsoft.com/resources/documentation/Windows/2000/server/reskit/en-us/Default.asp?url=/resources/documentation/windows/2000/server/reskit/en-us/cnet/cnfc_por_SIMW.asp

DCOM のセキュリティ・プロパティを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 **[スタート]** > **[ファイル名を指定して実行]** を選択し、**dcomcnfg** と入力して、ENTER キーを押します。**[コンポーネント サービス]** ウィンドウが表示されます。
- 2 **[コンソール ルート]** > **[コンポーネント サービス]** > **[コンピュータ]** > **[マイ コンピュータ]** に移動します。

注： Windows セキュリティ警告が表示されたら、**[後で確認する]** または **[ブロックを解除する]** をクリックします。

- 3 **[マイ コンピュータ]** を右クリックして、**[プロパティ]** を選択します。
- 4 **[既定のプロパティ]** タブを選択します。
- 5 **[既定の偽装レベル]** が **[識別する]** になっていることを確認して、**[適用]** をクリックします。
- 6 **[COM セキュリティ]** タブを選択します。
- 7 **[アクセス許可]** 領域で、**[制限の編集]** をクリックします。**[アクセス許可]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 8 **[追加]** をクリックします。**[ユーザーまたはグループの選択]** ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 9 **[詳細設定]** をクリックします。

- 10 [場所] をクリックします。ダイアログ・ボックスの中で、対象コンピュータの名前を選択し、[OK] をクリックします。
- 11 [今すぐ検索] をクリックします。
- 12 ローカル・コンピュータの以下のユーザおよびグループを選択して、[OK] をクリックします。
 - ▶ Administrator
 - ▶ Administrators
 - ▶ Authenticated Users
 - ▶ Anonymous Logon
 - ▶ Everyone
 - ▶ Interactive
 - ▶ Network
 - ▶ System
- 13 ドメインに属する次のユーザを追加し、[OK] をクリックします。
 - ▶ < QuickTest コンピュータにログインしているドメイン・ユーザ >
 - ▶ < リモート実行を行う Quality Center コンピュータにログインしているドメイン・ユーザ >
- 14 [アクセス許可] ダイアログ・ボックスで、[ローカル アクセス] と [リモート アクセス] の許可をリスト内のグループとユーザに割り当て、[OK] をクリックします。
- 15 [起動とアクティブ化のアクセス許可] 領域で、[制限の編集] をクリックします。[起動許可] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 16 手順 8 から 13 を繰り返します。
- 17 [アクセス許可] ダイアログ・ボックスで、[ローカルからの起動]、[リモートからの起動]、[ローカルからのアクティブ化] および [リモートからのアクティブ化] の許可をリスト内のグループとユーザに割り当て、[OK] をクリックします。

QuickTest Remote Agent DCOM アプリケーションのセキュリティを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [コンポーネント サービス] ウィンドウで、[**コンソール ルート**] > [**コンポーネント サービス**] > [**コンピュータ**] > [**マイ コンピュータ**] > [**DCOM の構成**] に移動します。
- 2 [**AQTRmtAgent**] 項目を右クリックし、[**プロパティ**] を選択します。
[AQTRmtAgent のプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 [ID] タブで、[**対話ユーザー**] を選択します。こうすることで、DCOM アプリケーションはログインしている Windows ユーザに対してプロセスの認証を行い、そのセキュリティ・コンテキストの中でプロセスを実行します。
- 4 [**セキュリティ**] タブを選択します。
- 5 [起動とアクティブ化のアクセス許可] 領域で、[**カスタマイズ**] を選択し [**編集**] をクリックします。[起動許可] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 6 [**追加**] をクリックします。[ユーザーまたはグループの選択] ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 7 [**詳細設定**] をクリックします。
- 8 [**場所**] をクリックします。ダイアログ・ボックスの中で、対象コンピュータの名前を選択し、[**OK**] をクリックします。
- 9 [**今すぐ検索**] をクリックします。
- 10 ローカル・コンピュータの以下のユーザおよびグループを選択して、[**OK**] をクリックします。
 - ▶ Administrator
 - ▶ Administrators
 - ▶ Authenticated Users
 - ▶ Anonymous Logon
 - ▶ Everyone
 - ▶ Interactive
 - ▶ Network
 - ▶ System

- 11 ドメインに属する次のユーザを追加し、[OK] をクリックします。
 - ▶ < QuickTest コンピュータにログインしているドメイン・ユーザ >
 - ▶ < リモート実行を行う Quality Center コンピュータにログインしているドメイン・ユーザ >
- 12 [起動許可] ダイアログ・ボックスで、リスト内のすべてのユーザとグループについて、すべてのアクセス許可で [許可] を選択して、[OK] をクリックします。
- 13 [アクセス許可] 領域で、[カスタマイズ] を選択し [編集] をクリックします。[アクセス許可] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 14 手順 6 から 12 を繰り返します。
- 15 [適用] をクリックし、変更を保存して [OK] をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。
- 16 [コンポーネント サービス] ウィンドウを閉じます。
- 17 以上で Quality Center から QuickTest テストをリモート実行できるようになります。

注：テストをリモート実行する前に QuickTest の [オプション] ダイアログ・ボックスの [実行] タブで、[他の HP 製品でテストおよびコンポーネントを実行可能にする] オプションが選択されていることを確認する必要があります。詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

Quality Center への接続に使用する、Windows Vista 上のユーザ・アカウント制御設定の変更

Windows Vista 上で QuickTest を実行している場合、Quality Center に初めて接続する前にユーザ・アカウント制御 (UAC : User Account Control) を無効化する必要があります。最初に Quality Center に接続した後で、ユーザ・アカウント制御 (UAC : User Account Control) を有効化することができます。

この変更は、QuickTest を Windows Vista 上で実行する場合のみ必要です。QuickTest テストを Quality Center からリモート実行する予定がない場合、手作業によるこれらの変更は必要ありません。

注：本項で説明するセキュリティ設定の変更は、システム管理者が行うことをお勧めします。Windows Vista 上のユーザ・アカウント制御（UAC：User Account Control）の変更に関しては、Microsoft サポートへお問い合わせください。

Windows Vista 上でユーザ・アカウント制御（UAC：User Account Control）を無効化するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [ユーザー アカウント] をクリックします。
- 2 [ユーザー アカウント制御の有効化または無効化] オプションをクリックします。
- 3 [ユーザー アカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる] チェック・ボックスをクリアします。
- 4 [OK] をクリックします。

QuickTest Professional プログラム・フォルダの参照について

QuickTest Professional セットアップ・プロセスが完了すると、QuickTest Professional プログラム・フォルダ（[スタート] > [プログラム] > [QuickTest Professional]）にいくつかの項目が追加されます。

これらの各項目の詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

注：このバージョンをインストールする前に QuickTest Professional の旧バージョンをアンインストールしている場合には、QuickTest Professional プログラム・フォルダに余計な（無効の）項目が追加されている場合があります。さらに、QuickTest Professional のアドインがある場合には、それらのアドインにだけ関連する項目が、プログラム・フォルダに追加される場合があります。

サイレント・インストールの設定

サイレント・インストール（または **quiet** インストール）は、バックグラウンドで実行されるインストールです。QuickTest Professional、QuickTest アドイン、および Quality Center アドインのインストールを、セットアップ画面の操作やユーザの関与なしに、サイレント・インストールでコンピュータにインストールできます。また、QuickTest Professional、QuickTest アドイン、および Quality Center アドインをリモート・コンピュータにインストールすることもできます。

詳細については、以下を参照してください。

- ▶ 46 ページ「インストールの前に」
- ▶ 47 ページ「QuickTest のサイレント・インストール」
- ▶ 51 ページ「QuickTest の使用可能な機能のインストール」
- ▶ 53 ページ「サイレント・インストールのリモート実行」

インストールの前に

QuickTest Professional および Quality Center アドインをインストールするには管理者権限が必要です（QuickTest のアンインストール、インストールの修復と変更、パッチのインストールなど、他のインストール作業にも管理者権限が必要です）。

以降の各項では、QuickTest Professional および QuickTest アドインのサイレント・インストールを実行する前にコンピュータにインストールしておく必要のある、前提条件のソフトウェアを示します。

QuickTest Professional および QuickTest アドインに必要なソフトウェア

QuickTest Professional および QuickTest アドインをインストールするには、次のソフトウェアが事前にコンピュータにインストールされている必要があります。これらのソフトウェアは、QuickTest インストール DVD で、**QuickTest** フォルダ配下の選択した言語フォルダにあります。

- ▶ .NET Framework 2.0
- ▶ Microsoft Visual C++ Run-time Components
- ▶ Microsoft Data Access Components 2.8 SP1
- ▶ Microsoft Windows Script 5.6 for Windows 2000

- ▶ Microsoft MSI 3.1
- ▶ Web Services Add-in : MSE 3.0 Runtime
- ▶ また、.NET アドイン用として次が必要です。
 - ▶ Microsoft WSE 3.0 Runtime
 - ▶ Microsoft SOAP Toolkit 3.0

Quality Center に必要なソフトウェア

Quality Center アドインをインストールするには、次のソフトウェアが事前にコンピュータにインストールされている必要があります。これらのソフトウェアは、QuickTest インストール DVD で、**QuickTest** 配下の選択した言語フォルダにあります。

- ▶ .NET Framework 2.0
- ▶ Microsoft Visual C++ Run-time Components

QuickTest のサイレント・インストール

QuickTest Professional, QuickTest アドイン, および Quality Center アドインを、サイレント・インストールでコンピュータにインストールできます。

注： コマンド・ラインから QuickTest をインストール中に、最も標準的な MSI コマンド・ライン・オプションを使用できます。MSI のサイレント・インストール（または quiet インストール）の詳細については、関連する Microsoft のドキュメントを参照してください。

QuickTest および QuickTest アドインのサイレント・インストールを実行するには、次の手順を実行します。

- 1 サイレント・インストールを実行する前に、開いているファイルをすべて保存し、開いているすべてのアプリケーションを閉じることをお勧めします。
- 2 QuickTest Professional に必要なソフトウェアをインストールします。事前にインストールしておく必要のあるソフトウェアの詳細については、46 ページ「インストールの前に」を参照してください。前提条件のソフトウェアがすべてインストールされていないと、サイレント・インストールを開始できません。

3 Microsoft MSI インストールを実行するには、次の手順を実行します。

- ▶ 新しいインストールを実行している場合は（以前の任意のバージョンの QuickTest がすでにアンインストールされている場合）、標準 `msiexec.exe` コマンドをコマンド・ラインから使用します。

たとえば、QuickTest を標準設定のフォルダから標準設定のアドインを使用してサイレント・インストールする場合は、次を使用します：`msiexec /i /qn "<DVD MSI Path>%HP_QuickTest_Professional.msi"`

- ▶ バージョン 9.5 からアップグレードしている場合は、コマンド・ラインから次のようなコマンドを実行します。

```
msiexec /i /qn " < DVD MSI パス > %HP_QuickTest_Professional.msi"  
ALLOW_UPGRADE=1 TARGETDIR= < QTP フォルダ >
```

説明：

< **DVD MSI パス** > は、DVD ドライブの `HP_QuickTest_Professional.msi` ファイルのパスです。QuickTest Professional の `.msi` ファイルはインストール DVD の **QuickTest%MSI** フォルダにあります。使用可能な言語ごとに別々の `msi` ファイルがあります。

< **QTP フォルダ** >には、以前のバージョンの QuickTest Professional が現在インストールされているフォルダの完全パス文字列（引用符で囲む）を指定します。

重要： QuickTest Professional 9.5 がインストールされているフォルダ以外のフォルダを指定すると、サイレント・インストールで以前のバージョンを完全にアンインストールし、QuickTest Professional 10.00 をインストールします。すべての設定が保存されるわけではありません。

バージョン 9.5 からのアップグレード時、QuickTest のウィンドウ・レイアウト、[オプション] ダイアログ・ボックスおよび [設定] ダイアログ・ボックスのすべての設定など、すべての設定が保存されます。さらに、105 ページ「QuickTest の設定の保存と復元」の「保存されたファイルと設定」の項で一覧表示されているファイルと設定を保存します。

- ▶ **ADDLOCAL** コマンド・ライン・オプションを使用し、インストールする QuickTest の機能およびアドインを、コンマで区切って指定します。使用可能な機能の詳細については、51 ページ「QuickTest の使用可能な機能のインストール」を参照してください。

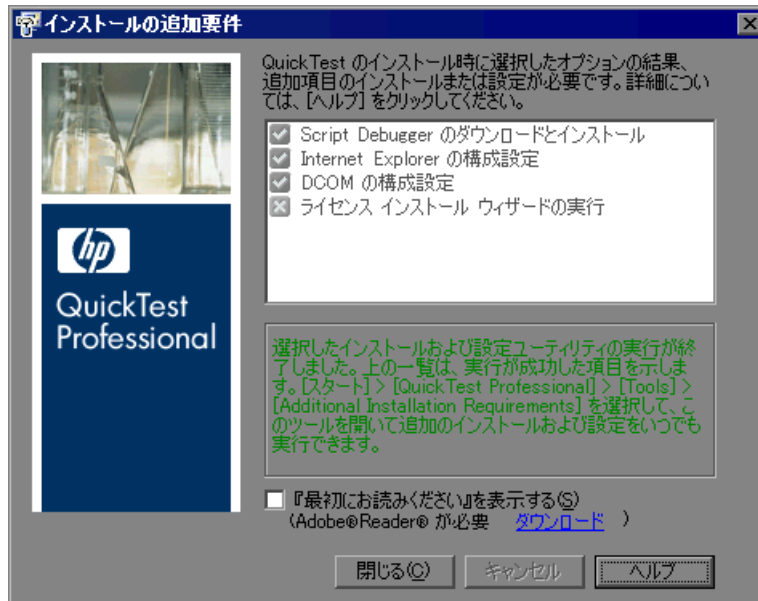
重要 : **ADDLOCAL** コマンドに対して、**UpdateService**, **Test_Results_Viewer**, **Web_Add-in**, および **Core_Components** を必ず指定する必要があります。

- 4 QuickTest Professional のインストールが完了したら、**[スタート]** > **[プログラム]** > **[QuickTest Professional]** > **[Tools]** > **[Additional Installation Requirements]** を選択します。

インストールの追加要件ユーティリティが開き、QuickTest の使用に必要なその他のソフトウェアがすべて一覧表示され、それらをインストールして設定できます。たとえば、ライセンス・インストール・ウィザードを実行して Microsoft Script Debugger をインストールできます。詳細については、36 ページ「インストールの追加要件ユーティリティの使用」を参照してください。

- 5 [インストールの追加要件] ダイアログ・ボックスで、その他の必要なインストール・オプションを選択し、**[実行]** をクリックします。選択したオプションがコンピュータにインストールされ設定された後、再び [インストールの追加要件] 画面が開きます。

正常にインストールまたは設定されたオプションの横に、チェックマークが表示されます。



- 6 インストールの最後に「**HP QuickTest Professional 最初にお読みください**」を開く場合は、「**『最初にお読みください』を表示する**」をクリックします。
Readme ファイルを参照するには、Adobe Reader をインストールしておく必要があります。お使いのコンピュータに Adobe Reader がインストールされている場合は、このチェック・ボックスは標準設定で選択されています。インストールされていない場合は、このチェック・ボックスは選択されていません。[**ダウンロード**] リンクをクリックして、Adobe Reader をダウンロードしてください。
- 7 [**閉じる**] をクリックします。

QuickTest の使用可能な機能のインストール

インストールする QuickTest の機能およびアドインを指定するには、サイレント・インストールのコマンド・ラインで **ADDLOCAL** オプションを使用します。

QuickTest を正常にインストールするには、次の必須オプションを **ADDLOCAL** コマンドに含める必要があります。

- ▶ **Core_Components** (親 : QuickTest_Professional)
- ▶ **UpdateService**
- ▶ **Test_Results_Viewer** (親 : QuickTest_Professional)
- ▶ **Web_Add-in**

注 :

- ▶ **UpdateService** は、QuickTest の自動更新を可能にする非表示機能です。
 - ▶ **ADDLOCAL** コマンドを使用して機能をインストールすると、その親も常にインストールされます。
-

必須オプションに加えて、QuickTest の次の機能およびアドインをインストールできます。

- ▶ **.NET_Add-in**
- ▶ **ActiveX_Add-in**
- ▶ **Java_Add-in**
- ▶ **Oracle_Add-in**
- ▶ **PeopleSoft_Add-in**
- ▶ **PowerBuilder_Add-in**
- ▶ **SAP_Solutions_Add-in**
- ▶ **SAP_eCATT_integration** (親 : SAP_Solutions_Add-in)
- ▶ **Samples** (親 : QuickTest_Professional)
- ▶ **Siebel_Add-in**

- ▶ Stingray_Add-in
- ▶ TE_Add-in
- ▶ VisualAge_Add-in
- ▶ Visual_Basic_Add-in
- ▶ Web_Services_Add-in

Quality Center 用の QuickTest アドインのサイレント・インストールのセットアップ

Quality Center アドインのインストールに、サイレント・インストールの仕組みを利用できます。

Quality Center のアドインのインストールは、QuickTest Professional のコア・インストールとほぼ同じ方法でサイレント実行できます。

Quality Center アドインのサイレント・インストールを実行するには、次の手順を実行します。

- 1 サイレント・インストールを実行する前に、開いているファイルをすべて保存し、開いているすべてのアプリケーションを閉じることをお勧めします。
- 2 コマンド・ラインから標準 **msiexec.exe** コマンドを実行して、Microsoft MSI のインストールを実行します。
 - ▶ Quality Center アドインの **.msi** ファイルはインストール DVD の **QCPlugin¥MSI** フォルダにあります。使用可能な言語ごとに別々の msi ファイルがあります。
 - ▶ バージョン 9.5 からアップグレードしている場合は、コマンド・ラインに次が含まれていることを確認してください。
TARGETDIR= < QT4QCAddin フォルダ > (< QT4QCAddin フォルダ >
は、アドインがインストールされるフォルダです。

サイレント・インストールのリモート実行

QuickTest のサイレント・インストールをリモートで実行できます。これにより、まったく同じインストールのオプションと機能を指定して、1 つ以上のリモート・コンピュータに QuickTest をインストールできます。

詳細については、Microsoft MSI のドキュメントを参照してください。

サイレント・インストールをリモート実行するには、次の手順を実行します。

- 1 サイレント・インストールを実行する前に、QuickTest Professional に前提条件のソフトウェアをすべてリモート・コンピュータにインストールしておく必要があります。事前にインストールしておく必要のあるソフトウェアの詳細については、46 ページ「インストールの前に」を参照してください。前提条件のソフトウェアがすべてインストールされていないと、サイレント・インストールを開始できません。
- 2 コマンド・ラインから Microsoft MSI の**サイレント**・インストールを実行します。
 - ▶ QuickTest Professional の **.msi** ファイルはインストール DVD の **QuickTest\MSI** フォルダにあります。使用可能な言語ごとに別々の **.msi** ファイルがあります。
 - ▶ **ADDLOCAL** コマンド・ライン・オプションを使用し、インストールする QuickTest の機能およびアドインを、コンマで区切って指定します。使用可能な機能の詳細については、51 ページ「QuickTest の使用可能な機能のインストール」を参照してください。

重要 : **ADDLOCAL** コマンドに対して、**UpdateService**、**Test_Results_Viewer**、**Web_Add-in**、および **Core_Components** を必ず指定する必要があります。

- ▶ Quality Center アドインの **.msi** ファイルはインストール DVD の **QCPlugin\MSI** フォルダにあります。使用可能な言語ごとに別々の **.msi** ファイルがあります。

第 3 章

QuickTest Professional ライセンスの使用方法

QuickTest Professional は、シート・ライセンス（旧ローカル・ライセンスまたはスタンドアロン・ライセンス）あるいはコンカレント・ライセンス（旧フローティング・ライセンス）を使用してインストールできます。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ QuickTest のライセンスの種類について（56 ページ）
- ▶ シート・ライセンス・キーの申請（57 ページ）
- ▶ シート・ライセンス・キーのインストール（60 ページ）
- ▶ コンカレント・ライセンスの使用（66 ページ）
- ▶ ライセンス情報の変更（71 ページ）
- ▶ LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定（73 ページ）
- ▶ コミュータ・ライセンスの使用（75 ページ）
- ▶ QuickTest ライセンスの検証（88 ページ）
- ▶ コンカレント・ライセンスに関する問題のトラブルシューティング（93 ページ）

QuickTest のライセンスの種類について

QuickTest Professional を使用するには、有効なライセンスが必要です。ライセンスにはシートとコンカレントの2種類があります。次の表に2つのライセンス・タイプの違いをまとめています。

トピック	シート・ライセンス	コンカレント・ライセンス
概要	インストール先のコンピュータ固有のライセンスです。	ライセンス1件につきコンカレント（同時実行）ユーザを1人追加する権利が与えられます。
ライセンス・キーあたりのインストール数	QuickTest Professional のインストール先ごとに異なるライセンス・キーが必要です。	ネットワークにインストールできる QuickTest Professional の数に制限はありませんが、専用のコンカレント・ライセンス・サーバによって、一度に実行できる QuickTest Professional の数が制限されます。
その他の問題	<p>ライセンス・キーは一部、ロッキング・コードに基づいています。ロッキング・コードは QuickTest Professional がインストールされているコンピュータを識別するコードです。提供されるライセンス・キーはロッキング・コードが生成されたコンピュータだけで動作します。</p> <p>注：複数の起動パーティションを持つコンピュータは、パーティションごとに異なるロッキング・コードを生成することがあります。パーティション用に異なるロッキング・コードが生成された場合には、専用のライセンス・キーを申請する必要があります。</p>	<p>UNIX ネットワークはサポートされていません。</p> <p>コンカレント・ライセンス・サーバには固定 IP アドレスを割り当てることをお勧めします。</p> <p>QuickTest Professional クライアント・コンピュータには TCP/IP がインストールされている必要があります。</p> <p>コンカレント・ライセンスをネットワーク上で使用するには、サーバで UDP ポート 5093 を開く必要があります。</p>

トピック	シート・ライセンス	コンカレント・ライセンス
ライセンス・キーの入力	インストール手順の最後に、QuickTest にライセンス・キーの入力を求められます。この時点でライセンス・キーがなかった場合は、QuickTest を最初に開いたときにキーの入力を求められます。	QuickTest を起動するたびにコンカレント・ライセンス・サーバが同じサブネット内で検索されます。インストールされている QuickTest クライアントのためのライセンス・キーを入力する必要はありません。

必要に応じて、ライセンス情報およびライセンス検証情報の表示とコピーを行うことができます。たとえば、管理またはトラブルシューティングを目的として、ライセンス情報を取得できます。詳細については、88 ページ「QuickTest ライセンスの検証」を参照してください。

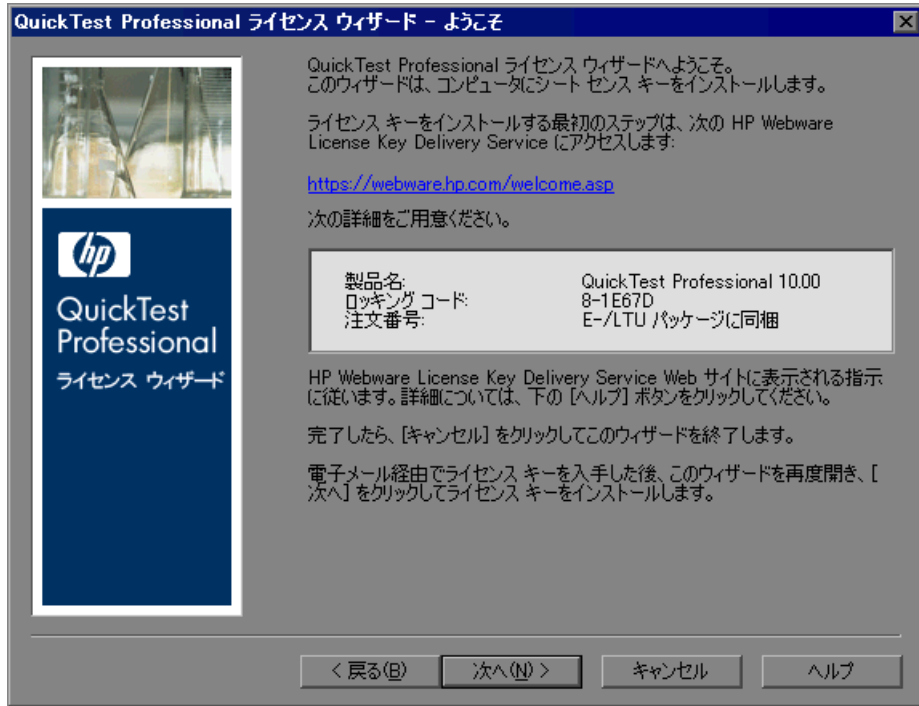
シート・ライセンス・キーの申請

シート・ライセンスを使って初めて QuickTest Professional をインストールする場合、14 日間のデモ・ライセンスが含まれます。14 日を超えて QuickTest Professional を使用する場合は、QuickTest Professional 用のライセンス・キーを申請し、有効にする必要があります。

シート・ライセンス・キーを申請するには、次の手順を実行します。

- 次の手順のいずれかを実行します。
 - ▶ QuickTest Professional を起動すると表示されるライセンス警告メッセージの中で **[インストール]** をクリックします。
 - ▶ QuickTest Professional の中から **[ヘルプ]** > **[QuickTest Professional のバージョン情報]** を選択します。[QuickTest Professional のバージョン情報] ダイアログ・ボックスが開きます。**[ライセンス]** をクリックします。**[ライセンスのサマリ]** ダイアログ・ボックスが開きます。**[ライセンスの変更]** をクリックします。

[ライセンスの種類] 画面が開きます。[シートライセンス] を選択し、[次へ] をクリックします。[はい] をクリックして新しいライセンス・キーをインストールします。[よろこそ] 画面が開きます。



- お使いのコンピュータのロッキング・コードが表示されたら、これをメモします。ライセンス・キーの申請に必要です。ライセンス・キーを申請するには、**HP Webware License Key Delivery Service** の [QuickTest Professional License Installation - Welcome] 画面のリンクをクリックします。59 ページ「HP Webware License Key Delivery Service へのライセンス・キーの申請」に示す指示に従ってください。

HP Webware License Key Delivery Service へのライセンス・キーの申請

HP Webware License Key Delivery Service は、ライセンス・キーの申請をお手伝いします。ここで示す手順は、QuickTest Professional ライセンス・キーの申請手順の概要です。

License Key Delivery Service フォームの各フィールドの詳細については、『ESD and Webware License Management Guide』を参照してください（HP License Key Delivery Service の「Welcome」ページにある **[Support]** セクションで **[Webware User Guide]** リンクをクリックします）。

ライセンス・キーを申請するには、次の手順を実行します。

- 1 HP Webware License Key Delivery Service** の [QuickTest Professional License Installation - Welcome] 画面のリンクをクリックします。HP License Key Delivery Service の「Welcome」ページが表示されます。
- [Generate New Licenses]** をクリックします。「Generate license(s)」ページが表示されます。
- LTU または ELTU パッケージに含まれる Software Entitlement Certificate の注文番号を入力します。
- [Next]** をクリックします。「Product Selection」ページが表示されます。
- ライセンス・キーを申請する製品名の横のチェック・ボックスを選択します。
- [Next]** をクリックします。「Order Product Detail(s)」ページが表示されます。
- コンピュータのロッキング・コードを入力します。ロッキング・コードは [QuickTest Professional License Installation - Welcome] 画面に表示されます。
- [Next]** をクリックします。「Member sign-in」ページが表示されます。
- 以前に Webware Licensing サービスを利用したことがある場合は、電子メールアドレスとパスワードを入力します。利用したことがない場合は、新規ユーザとしてログインします。
- [Sign-in]** をクリックします。「Address information」ページが表示されます。以前に利用したことがあるユーザの場合は、Webware によってユーザ情報がフィールドに自動的に入力されます。新規ユーザの場合は、画面に表示される指示に従って情報を入力します。「Address information」ページへの入力については、『ESD and Webware License Management Guide』を参照してください。

- 11 顧客のためにライセンス・キーを申請している顧客担当者の方で、手続きのコピーを顧客に送信しない場合は、**[E-mail a copy of this license transaction to the license owner]** チェック・ボックスの選択を解除します。
- 12 エンド・ユーザ顧客の方は、**[I am the License owner]** チェック・ボックスを選択してください。**[License owner (End-user) information]** セクションが無効になります。
- 13 顧客のためにライセンス・キーを申請している顧客担当者の方は、**[I am the License owner]** チェック・ボックスの選択を解除してください。**[License owner (End-User) information]** セクションで要求される情報をすべて入力してください。
- 14 **[Next]** をクリックします。「License/Password」ページが表示されます。**Session ID** をメモしてから、**[Main Menu]** をクリックして「Welcome」ページに戻ります。永久パスワード証明書は、ライセンス・キーと一緒に指定したアドレスに電子メールで送付されます。
- 15 **[キャンセル]** をクリックして、電子メールで届く永久パスワード証明書を待機してください。ライセンス・キーが届いたら、60 ページ「シート・ライセンス・キーのインストール」の手順を実行します。

シート・ライセンス・キーのインストール

[ライセンス キー] 画面に、HP から届いたライセンス・キーを入力します。ライセンス・キーは、永久パスワード証明書の含まれている電子メールに添付されている **.dat** ファイルに含まれています。

注：ライセンス・キーをインストールするには、管理者権限が必要です。

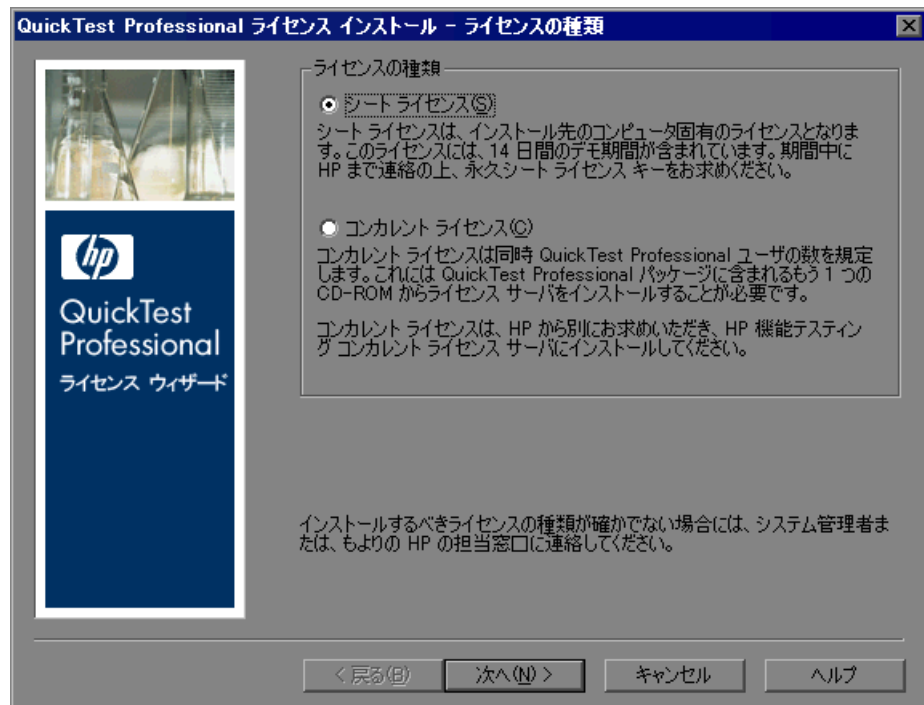
シート・ライセンス・キーをインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 次の手順のいずれかを実行します。
 - ▶ QuickTest Professional を起動すると表示される警告メッセージの中で **[ライセンスのインストール]** をクリックします。

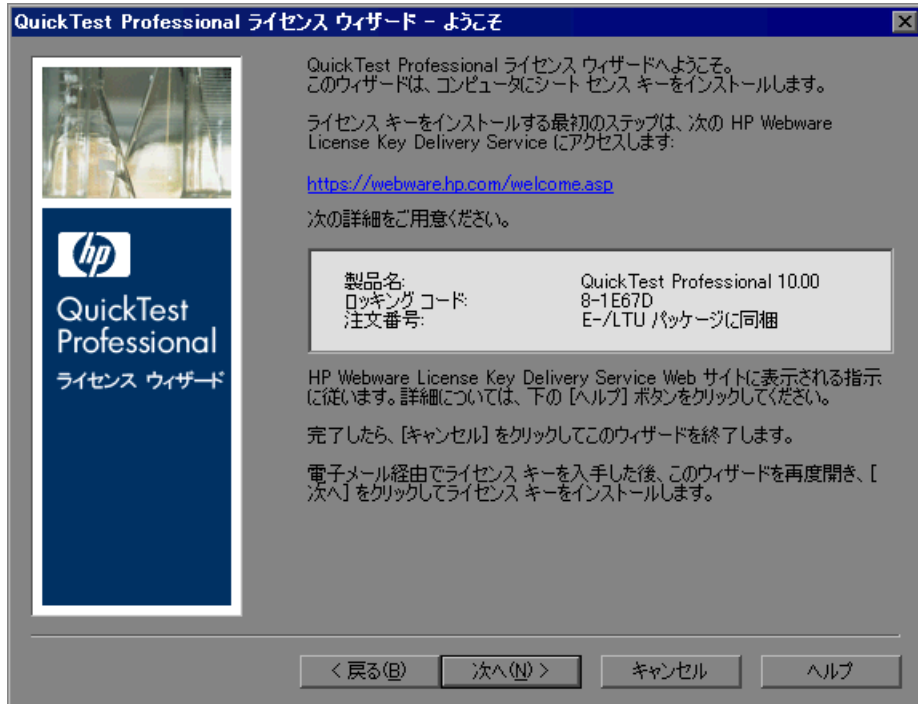
- ▶ QuickTest Professional の中から [ヘルプ] > [QuickTest Professional のバージョン情報] を選択します。[QuickTest Professional のバージョン情報] ダイアログ・ボックスの中で [ライセンス] をクリックします。[ライセンスのサマリ] ダイアログ・ボックスの中で [ライセンスの変更] をクリックします。

注： QuickTest のインストールの一環として、シート・ライセンスを有効化できます。最後のインストール画面で [完了] をクリックすると、[QuickTest Professional ライセンスのインストール - ようこそ] 画面が次のように開きます。

[ライセンスの種類] 画面が開きます。

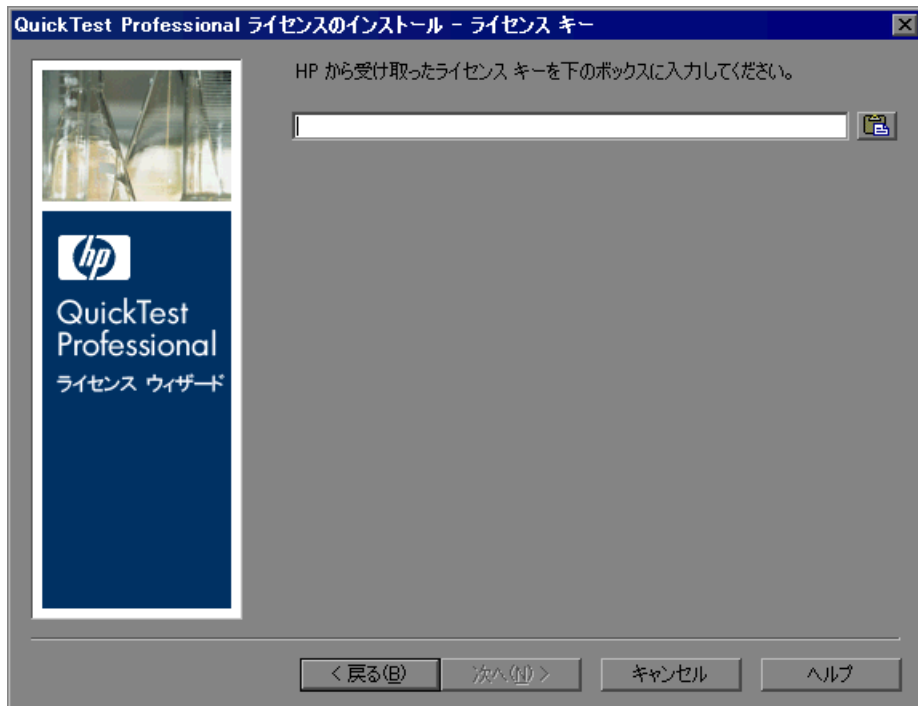


- 2 [シート ライセンス] を選択し、[次へ] をクリックします。確認ボックスで、[はい] をクリックして新しいライセンス・キーをインストールします。[よろこぞ] 画面が開きます。



ヒント：この画面に表示されているロッキング・コードと、HP にライセンス・キーを要求したときに送ったロッキング・コードが一致することを確認します。

- 3 [次へ] をクリックしてライセンスのインストールを開始します。[ライセンスキー] 画面が開きます。

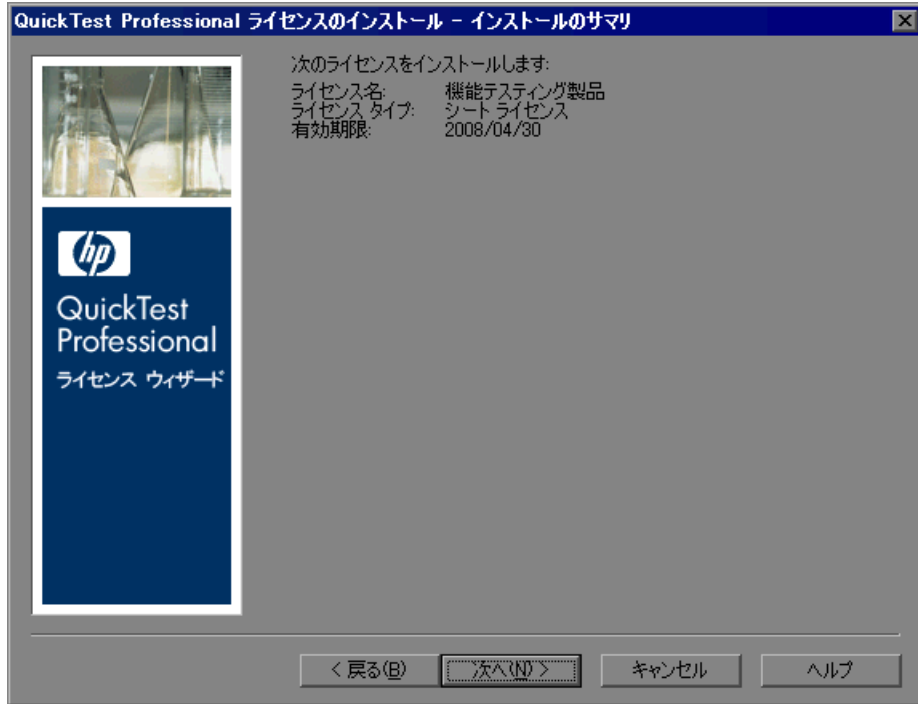


注：

- ▶ ライセンス・キーは、HP ソフトウェア・サポートへのライセンス申請に使用したロッキング・コードを持つコンピュータでのみ有効です。
- ▶ 複数の起動用パーティションを持つコンピュータは、パーティションごとに異なるロッキング・コードを生成することがあります。パーティション用に異なるロッキング・コードが生成された場合には、専用のライセンス・キーを申請する必要があります。

-
- 4 永久パスワード証明書の含まれる電子メールに添付されている **.dat** ファイルをテキスト・エディタで開きます。ライセンス・キーは、永久パスワード証明書にも含まれています。

- 5 **.dat** ファイルから # 文字の含まれているライセンス・キーを選択して、クリップボードにコピーします。
- 6 **[クリップボードから貼り付ける]** ボタンをクリックして、キーを [QuickTest Professional ライセンス インストールーライセンス キー] 画面に貼り付けます。
- 7 **[次へ]** をクリックします。[インストールのサマリ] 画面が開きます。



- 8 情報が正しいことを確認し、**[次へ]** をクリックします。**[完了]** 画面が開きます。



有効なライセンス・キーを入力すると、**[完了]** 画面でライセンス・キーが正しくインストールされたことが確認できます。

ライセンスを正しくインストールできなかった場合は、その理由を示すメッセージが表示されます。たとえば、シート・ライセンスが以前にコンピュータにインストールされていた場合に、同じライセンス・キーを使用してもう一度シート・ライセンスをインストールしようとする、ライセンスが正しくインストールされません。ライセンスを正しくインストールできなかった場合は、**[サポートに送信]** ボタンが表示されます。**[サポートに送信]** をクリックすると、ライセンス情報を記入した電子メールを作成して、最寄りの HP ソフトウェア・サポートに送信できます。HP ソフトウェア・サポートによる支援が受けられるように、必ず必須情報を電子メールに記入してください。

ヒント：別のライセンスをインストールする場合は、**[ライセンスをもう1つインストールする]** チェック・ボックスを選択して 62 ページの手順 2 を行ってください。

- 9 別の QuickTest ライセンスをインストールしない場合は、**[完了]** をクリックし、ライセンスの有効化手順を完了してウィザードを終了します。

コンカレント・ライセンスの使用

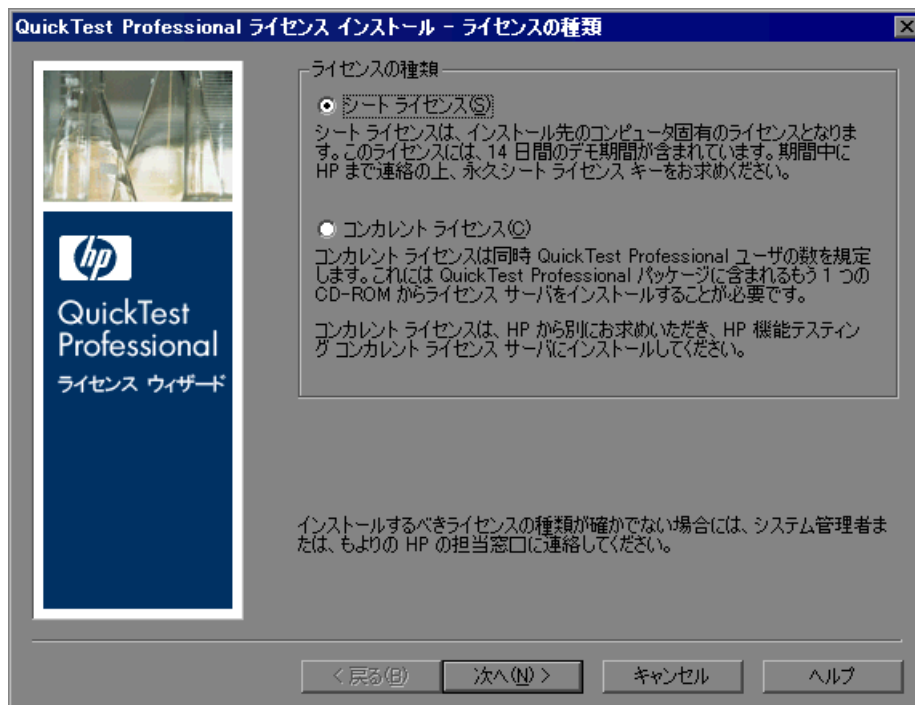
利用可能なライセンスを提供するアクセス可能なコンカレント・ライセンス・サーバがネットワーク上にあれば、コンカレント・ライセンス・サーバに接続できます。これにより、シート・ライセンスの代わりにコンカレント・ライセンスを使用できます。コンカレント・ライセンス・サーバを使った作業と、サポートしているバージョンの詳細については、『**HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド**』を参照してください。

注：QuickTest のインストール手順の実行中にコンカレント・ライセンス・サーバを指定することもできます。詳細については、20 ページ「QuickTest Professional のインストール」を参照してください。

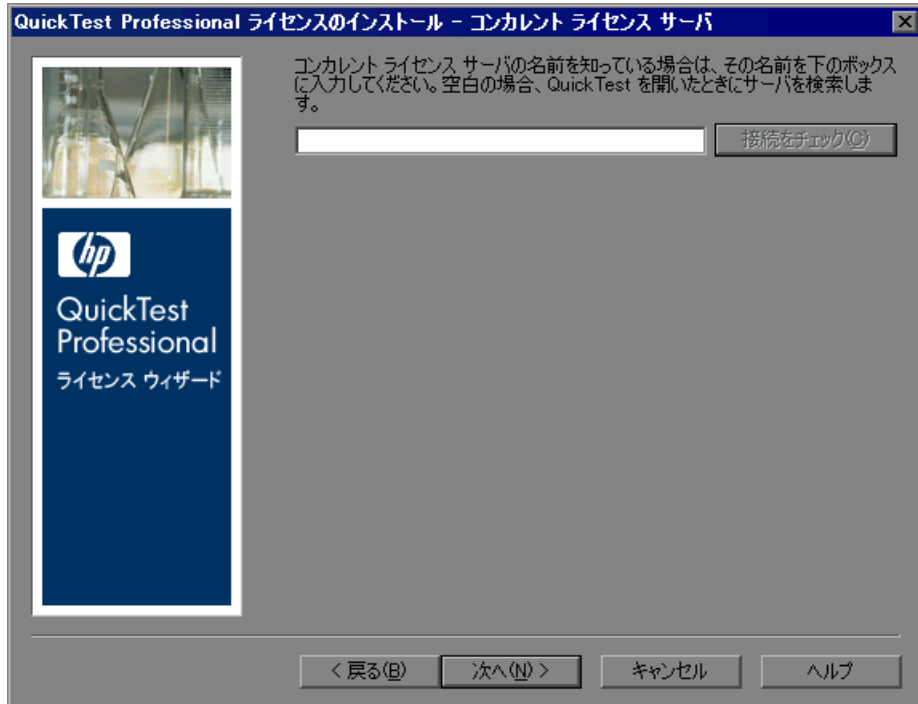
コンカレント・ライセンスを使用するには、次の手順を実行します。

- 1 次の手順のいずれかを実行します。
 - ▶ QuickTest Professional を起動すると表示されるライセンス警告メッセージの中で **[インストール]** をクリックします。
 - ▶ QuickTest Professional の中から **[ヘルプ]** > **[QuickTest Professional のバージョン情報]** を選択します。[QuickTest Professional のバージョン情報] ダイアログ・ボックスが開きます。**[ライセンス]** をクリックします。[ライセンスのサマリ] ダイアログ・ボックスが開きます。**[ライセンスの変更]** をクリックします。

[ライセンスの種類] 画面が開きます。



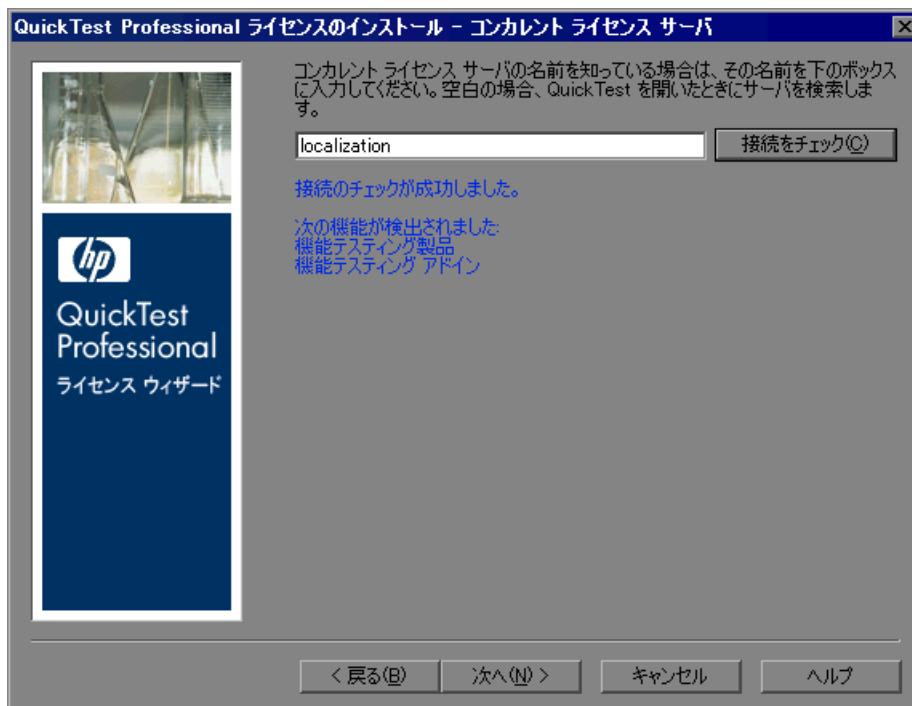
- 2 [コンカレント ライセンス] を選択し、[次へ] をクリックします。[コンカレント ライセンス サーバ] 画面が開きます。



- 3 エディット・ボックスに、接続先となるコンカレント・ライセンス・サーバの名前または IP アドレスを入力するか、または、ボックスを空のままにして、ローカル・ネットワーク上で使用可能なサーバを検索するよう QuickTest に指示します。

ヒント：ライセンス・ウィザードを使用してコンカレント・ライセンスを有効化すると、LSHOST ユーザ変数が、指定したコンカレント・ライセンス・サーバに自動的に定義されます。コンカレント・ライセンス・サーバを変更するには、ライセンス・ウィザードを実行するか、あるいは LSHOST または LSFORCEHOST ユーザ変数を設定します。詳細については、73 ページ「LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定」を参照してください。

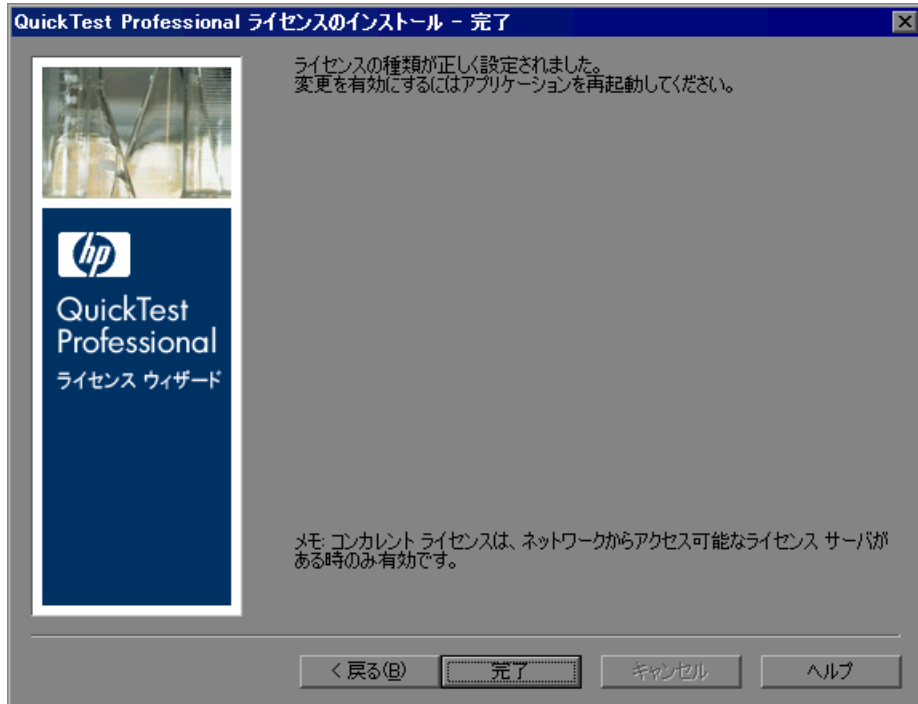
- 4 [接続をチェック] をクリックします。QuickTest からコンカレント・ライセンス・サーバに接続できた場合は、成功メッセージが表示されます。



注：コンカレント・ライセンス・サーバに接続できなかった場合は、[コンカレント ライセンス サーバ] 画面を通じてそのことが通知されます。

ヒント：現在は使用できないものの、後で利用できるようになるコンカレント・ライセンス・サーバの名前を指定する場合は、そのコンカレント・ライセンス・サーバの名前をエディット・ボックスに入力できます。[コンカレント ライセンス サーバ] 画面には、指定したサーバに接続できないことが通知されますが、次回 QuickTest を開いたときに、QuickTest は指定したサーバの検索を試みます。

- 5 [次へ] をクリックします。コンカレント・ライセンスの有効化が正常に行われたことが通知されます。



- 6 [完了] をクリックして、ウィザードを終了します。QuickTest Professional が開いている場合、コンカレント・ライセンス・サーバを使用するためには QuickTest Professional をいったん終了して再度開始する必要があります。

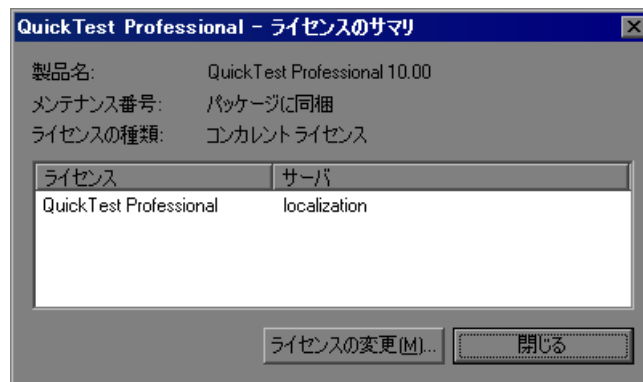
ライセンス情報の変更

QuickTest Professional のインストール後は、いつでもライセンス・キーを変更したり、ライセンスの種類を変更したりできます。新しいライセンス・キーの申請の詳細については、57 ページ「シート・ライセンス・キーの申請」を参照してください。

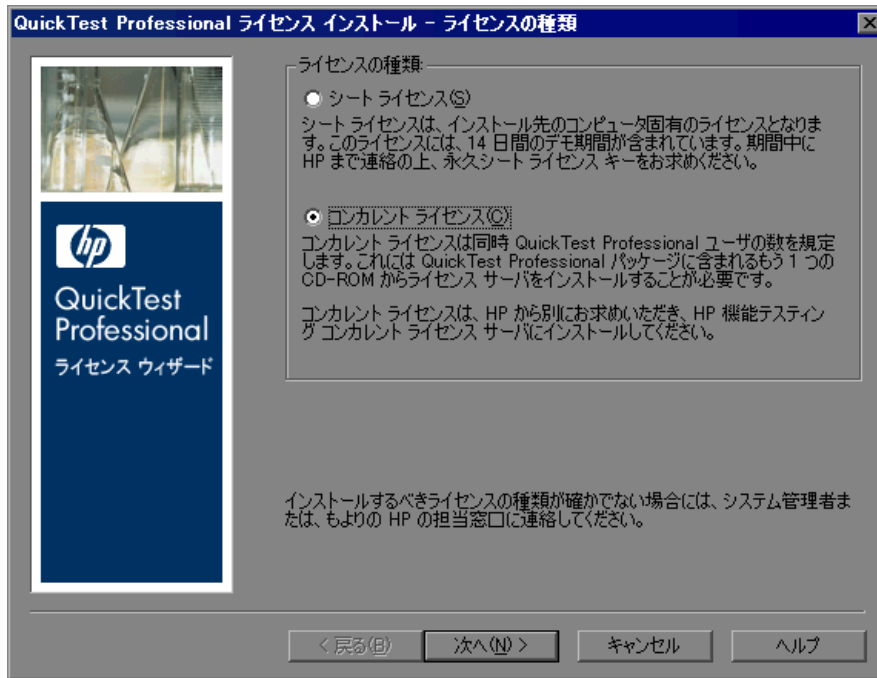
注：インストールされている QuickTest のライセンスの種類をシートからコンカレントへ、およびその逆へ変更するには、管理者権限でログインしている必要があります。

ライセンス情報を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 QuickTest Professional を開きます。
- 2 [ヘルプ] > [QuickTest Professional のバージョン情報] をクリックします。
[QuickTest Professional のバージョン情報] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 [ライセンス] をクリックします。[ライセンスのサマリ] ダイアログ・ボックスが開きます。



4 [ライセンスの変更] をクリックします。[ライセンスの種類] 画面が開きます。



- ▶ ライセンスの種類をコンカレントからシートに変更するには、[シートライセンス] を選択し、[次へ] をクリックします。確認ボックスが開きます。
 - ▶ すでに有効なシート・ライセンス・キーがインストールされている場合は、[いいえ] をクリックして、選択したライセンスの種類を保存します。
 - ▶ コミュータ・ライセンスをチェック・アウトしていて、それを今すぐに変更したい場合は、[いいえ] をクリックします。
 - ▶ シート・ライセンス・キーがインストールされていない場合は、[はい] をクリックします。

[よろこ] 画面が開きます。「シート・ライセンス・キーのインストール」の手順4から9に従ってください。

- ▶ ライセンスの種類をシートからコンカレントに変更するには、[コンカレントライセンス] を選択し、[次へ] をクリックします。「コンカレント・ライセンスを使った作業」の手順2から6に従ってください。

注：コンカレント・ライセンスを使うには、コンカレント・ライセンス・サーバがネットワーク上にインストールされていてネットワークからアクセスでき、利用可能なコンカレント・ライセンスがある必要があります。コンカレント・ライセンス・サーバのインストールの詳細については、『**HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド**』を参照してください。

- 5 **「閉じる」** をクリックして [QuickTest Professional のバージョン情報] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 6 QuickTest Professional を再起動し、変更を適用します。

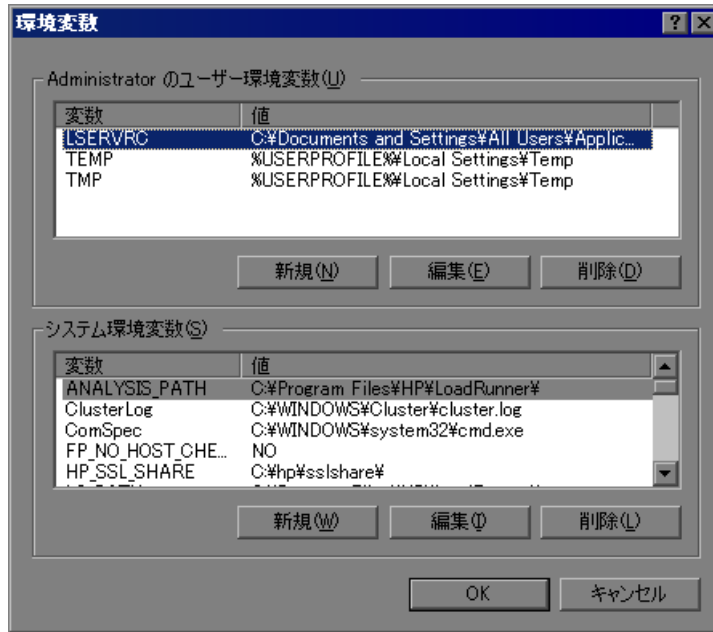
LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定

ライセンス・ウィザードを使用して QuickTest の接続先となるコンカレント・ライセンス・サーバを指定する以外に、Windows の環境変数を使用してコンカレント・ライセンス・サーバを指定することもできます。たとえば、LSHOST 変数を使用して、QuickTest クライアントの接続先にしたいコンカレント・ライセンス・サーバを設定できます。指定したコンカレント・サーバがローカル・サブネットに見つからない場合は、ネットワーク全体が検索されます。あるいは、LSFORCEHOST 変数を使用して、QuickTest を特定のコンカレント・ライセンス・サーバに限定することもできます。

注：ライセンス・ウィザードを使用してコンカレント・ライセンスを有効化した場合は、LSHOST ユーザ変数が、指定したコンカレント・ライセンス・サーバにすでに定義されています。

LSHOST または LSFORCEHOST 変数を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [環境変数] ダイアログ・ボックスを開きます ([スタート] > [設定] > [コントロールパネル]) を選択します。[システム] をダブルクリックします。[システムのプロパティ] ダイアログ・ボックスで [詳細設定] タブをクリックします。続いて [環境変数] ボタンをクリックします。[環境変数] ダイアログ・ボックスが開きます。



注：すでに LSHOST システム変数または LSFORCEHOST システム変数を使用してコンカレント・ライセンス・サーバが定義されている場合は、ユーザ変数を使用して定義する必要はありません。

- 2 [<ユーザ名>のユーザー環境変数] リストの下にある [新規] をクリックします。[新しいユーザー変数] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 [変数名] ボックスに、LSHOST または LSFORCEHOST と入力します。
- 4 [変数値] ボックスに、コンカレント・ライセンス・サーバの正式名称を入力します。または、ホスト・コンピュータの IP アドレスを入力しても構いません。

注：

- ▶ LSHOST および LSHOSTFORCE 環境変数の値は 64 文字に制限されています。
 - ▶ ホスト名が複数ある（たとえば 1 つのネットワーク上で複数の HP Functional Testing Concurrent License Servers を運用している）場合には、セミコロン (;) を使って [変数値] ボックスの中のホスト名または IP アドレスの間を区切ります。
-

- 5 [OK] をクリックして、[新しいユーザー変数] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 6 [OK] をクリックして [環境変数] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 7 [OK] をクリックして [システムのプロパティ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

コンピュータ・ライセンスの使用

コンカレント・ライセンスで QuickTest を使用しているものの、出張などで自分のコンピュータをネットワークに接続できない場合は、コンピュータ・ライセンスをインストールできます。コンピュータ・ライセンスはコンカレント・ライセンスを所有している会社でのみ使用できます（シート・ライセンスでは使用できません）。

たとえば、出先からラップトップ・コンピュータで QuickTest を使用したいとします。出先で使えるように、QuickTest ライセンスをコンカレント・ライセンス・サーバからチェック・アウトし、出先から戻ったときにライセンスをチェック・インして戻すことができます。コンピュータ・ライセンスは、必要に応じて最大で 30 日間有効です。

ヒント：コンカレント・ライセンスを取得済みでコンカレント・ライセンス・サーバから遠くにいる場合、ネットワークの混雑時にコンピュータ・ライセンスも使用することができます。

詳細については、後述の「コンピュータ・ライセンスのチェック・アウト」および 79 ページ「コンピュータ・ライセンスのチェックイン」を参照してください。

注：コンピュータ・ライセンスをインストールするには、ライセンスを使用するコンピュータの管理者権限が必要です。

さらに、ネットワークとの接続を切る（外出する）前にライセンスをチェック・アウトできなかった場合や、チェック・アウトしたライセンスの有効期限が出先で切れてしまった場合には、ローカル・ネットワーク・ユーザに依頼してコンピュータ・ライセンスをチェック・アウトし、出先に送ってもらうこともできます。詳細については、80 ページ「リモートでのコンピュータ・ライセンスの取得」を参照してください。

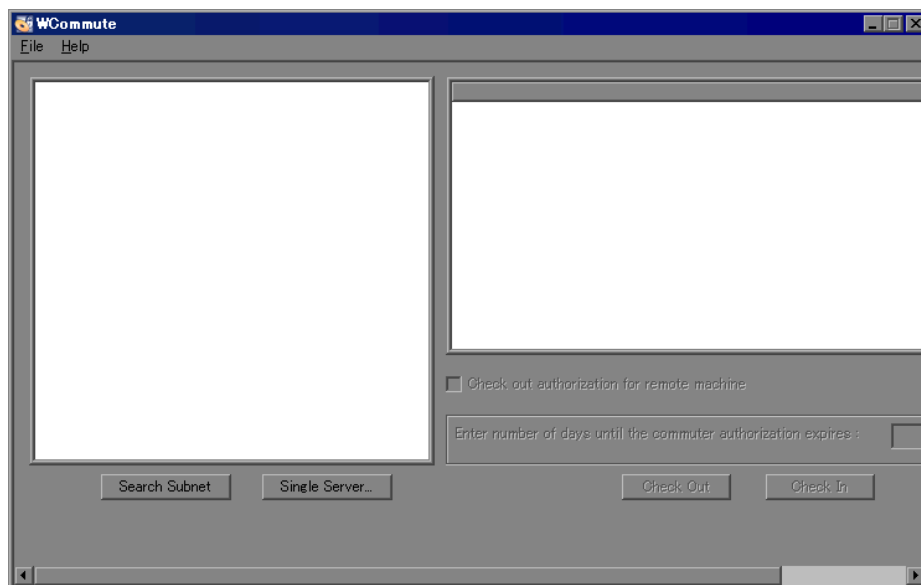
注：コンピュータ・ライセンスは、HP Functional Testing Concurrent License Server バージョン 7.6 以降でサポートされています。HP Functional Testing Concurrent License Server バージョン 7.6 以降にアップグレードした場合は、コンピュータ・ライセンス機能を有効にするために新しいサーバ・ライセンス・キーを申請する必要があります。詳細については、HP ソフトウェア・サポートまたは最寄りの代理店にお問い合わせください。

コンピュータ・ライセンスのチェック・アウト

コンピュータ・ライセンスをチェック・アウトする前に、コンピュータ・ライセンスをインストールするコンピュータ（ラップトップなど）に QuickTest がインストール済みであること、そのコンピュータがネットワークに接続されていること、および、利用可能な QuickTest ライセンスを提供しているコンカレント・ライセンス・サーバにアクセスできることを確認します。ライセンスをチェック・アウトした後は、ネットワークからコンピュータを切断できます。

コンピュータ・ライセンスをチェック・アウトするには、次の手順を実行します。

- 1 < QuickTest のインストール・フォルダ > %bin にある WCommute.exe ファイルを実行します。[WCommute] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 サブネット内にあるすべてのコンカレント・ライセンス・サーバ上の利用可能なコンピュータ・ライセンスを確認するには、[Search Subnet] をクリックします。特定のコンカレント・ライセンス・サーバを指定したい場合や、サブネット外のコンカレント・ライセンス・サーバを選択したい場合は、[Single Server] をクリックします。
 - ▶ [Search Subnet] をクリックすると、WCommute ユーティリティは、コンピュータ・ライセンスをサポートしているコンカレント・ライセンス・サーバをサブネットの中で探し、それらを [WCommute] ダイアログ・ボックスに表示します。この処理には数分かかる場合があります。
 - ▶ [Single Server] をクリックすると、コンカレント・ライセンス・サーバを指定するためのダイアログ・ボックスが開きます。コンカレント・ライセンス・サーバ・コンピュータのホスト名、IP アドレス、または IPX アドレスを入力し、[OK] をクリックします。指定したコンカレント・ライセンス・サーバが検索され、[WCommute] ダイアログ・ボックスに表示されます。

コンカレント・ライセンス・サーバごとに、使用可能なコンピュータ・ライセンスのリストが表示されます。コンピュータ・ライセンスの横の赤いチェック・マークは、使用しているコンピュータに対してそのライセンスがすでにチェック・アウトされていることを表しています。同じアプリケーション用の複数のライセンスを、同じコンピュータにチェック・アウトすることはできません。ライセンスの詳細を表示するには、ダイアログ・ボックスの右の表示枠にあるライセンスをクリックします。

- 3 チェック・アウトするライセンスを選択します。
- 4 **[Enter number of days until the commuter authorization expires]** ボックスで、ライセンスをチェック・アウトする最大日数を指定します（最大で 30 日まで）。

注：ライセンスをチェック・アウトすると、他のユーザが使用できるライセンスの数が少なくなります。そのため、最低限の日数を指定するようにします。

- 5 **[Check Out]** をクリックします。選択したライセンスが、使用しているコンピュータにローカルに保存されます。
- 6 チェック・アウトした新しいライセンスを使用するには、QuickTest を開き、ライセンスの種類をコンカレントからシートに変更します。コンピュータ・ライセンスを使用するには、ライセンスの種類を変更後に表示される確認メッセージで **[いいえ]** をクリックします。詳細については、71 ページ「ライセンス情報の変更」を参照してください。

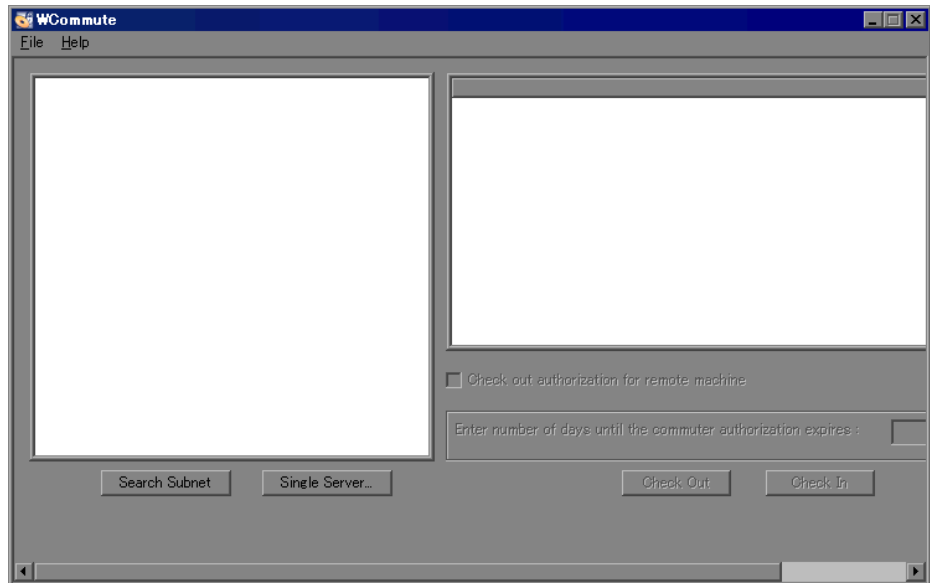
コンピュータ・ライセンスのチェックイン

コンピュータ・ライセンスを使い終わったら、使用しているコンピュータから、チェック・アウトしたコンカレント・ライセンス・サーバにライセンスをチェック・インする必要があります。これにより、他のユーザがそのライセンスを使用できるようになります。

注：ライセンスが期限切れになっている場合、チェック・インする必要はありません。期限切れになったライセンスは使用できなくなります。使用しているコンピュータがコンカレント・ライセンス・サーバ・ネットワークに接続していなくても、ライセンスは自動的にコンカレント・ライセンス・サーバに戻されます。

コンピュータ・ライセンスをチェック・インするには、次の手順を実行します。

- 1 < **QuickTest のインストール・フォルダ** > **%bin** にある **WCommute.exe** ファイルを実行します。[WCommute] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 77 ページの「コンピュータ・ライセンスのチェック・アウト」の手順 2 に従って、チェック・インするコンピュータ・ライセンスに対応するコンカレント・ライセンス・サーバを検索します。ライセンスは、チェック・アウトしたのと同じコンカレント・ライセンス・サーバにチェック・インする必要があります。
- 3 チェック・アウトしているライセンスを選択します。

ヒント：チェック・アウトしているライセンスは、赤いチェック・マークで示されています。

- 4 **[Check In]** をクリックします。ライセンスがコンカレント・ライセンス・サーバに戻され、他のユーザが使用できるようになります。

注：QuickTest を再び使用するには、使用に先立ってライセンスの種類をシートからコンカレントに変更する必要があります。詳細については、71 ページ「ライセンス情報の変更」を参照してください。

リモートでのコンピュータ・ライセンスの取得

ローカル・ネットワークのユーザに QuickTest コンピュータ・ライセンスをローカルにチェック・アウトしてもらい、それを送信してもらってリモート・コンピュータにインストールすることができます。この機能は、現在コンカレント・ライセンス・サーバ・ネットワークに接続していない場合に便利です。たとえば、長期出張でオフィスを空けるものの、QuickTest を使用できる必要があることが考えられます。

コンピュータ・ライセンスをリモートで取得するには、次の手順を実行します。

- 1 WRCmmute ユーティリティを実行し、使用しているコンピュータのコンピュータ・ロッキング・コードを生成します。そして、そのコンピュータ・ロッキング・コードを、コンカレント・ライセンス・サーバにアクセス可能なローカル・ユーザに送信します。詳細については、81 ページ「手順 1：リモート・コンピュータのロッキング・コードの生成」を参照してください。

- 2 ローカル・ユーザに依頼して、WRCommute ユーティリティを実行して（そのときに、生成したコミュータ・ロッキング・コードを入力してもらいます）リモート・コミュータ・ライセンスをチェック・アウトしてもらった後、それを送信してもらいます。詳細については、83 ページ「手順2：リモート・コンピュータのためのコミュータ・ライセンスのチェック・アウト」を参照してください。
- 3 WRCommute ユーティリティを実行し、リモート・コミュータ・ライセンスをコンピュータにインストールします。詳細については、86 ページ「手順3：リモート・コンピュータでのコミュータ・ライセンスのインストール」を参照してください。
- 4 QuickTest を開き、ライセンスの種類をコンカレントからシートに変更します。コミュータ・ライセンスを使用するには、ライセンスの種類を変更後に表示される確認メッセージで「いいえ」をクリックします。詳細については、71 ページ「ライセンス情報の変更」を参照してください。

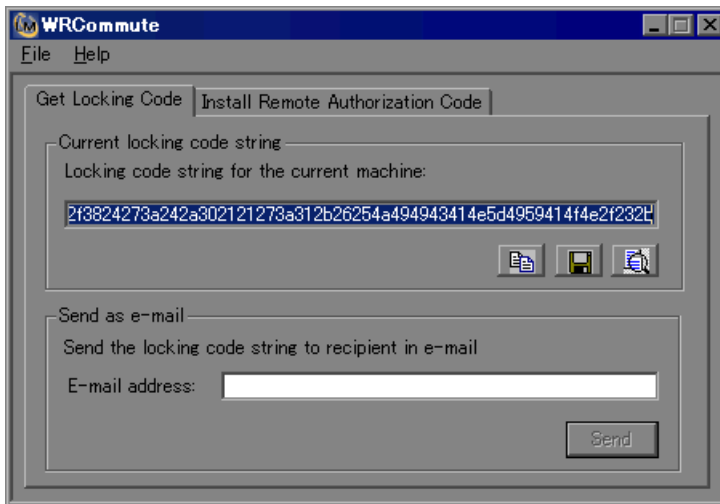
手順1：リモート・コンピュータのロッキング・コードの生成

コミュータ・ライセンスをリモートで取得する最初の手順は、使用しているコンピュータで WRCommute ユーティリティを使用してロッキング・コードを生成し、コンカレント・ライセンス・サーバにアクセスできるネットワーク・ユーザに電子メールでそのコードを転送することです。

注：コミュータ・ライセンスのロックに使用するリモート・コンピュータ・ロッキング・コードは、ECHOID ユーティリティで表示されるロッキング・コードと同じではありません。コミュータ・ライセンスのロッキング・コードを取得するには、WRCommute ユーティリティを使用する必要があります。

リモート・コンピュータでロッキング・コードを生成するには、次の手順を実行します。

- 1 < **QuickTest のインストール・フォルダ** > %bin にある **WRCommute.exe** ファイルを実行します。[WRCommute] ダイアログ・ボックスが開きます。



[**Locking code string for the current machine**] ボックスには、QuickTest ライセンスが含まれているコンカレント・ライセンス・サーバにアクセスできるネットワーク・ユーザに電子メールで送信する必要があるロッキング・コードが示されます。

- 2 次に示すいずれかの方法で、ローカル・ネットワーク・ユーザにロッキング・コードを送信します。



- ▶ ロッキング・コードの文字列を選択し、[**Copy to clipboard**] ボタンをクリックして、その文字列を Windows のクリップボードにコピーします。次に電子メール・プログラムを開き、新しい電子メール・メッセージに文字列を貼り付けて、ローカル・ネットワーク・ユーザに送信します。



- ▶ [**Save lock code string to file**] ボタンをクリックし、ロッキング・コードをファイルに保存します。ファイルの名前と場所を指定し、新しい電子メール・メッセージにそのファイルを添付して、ローカル・ネットワーク・ユーザに送信します。



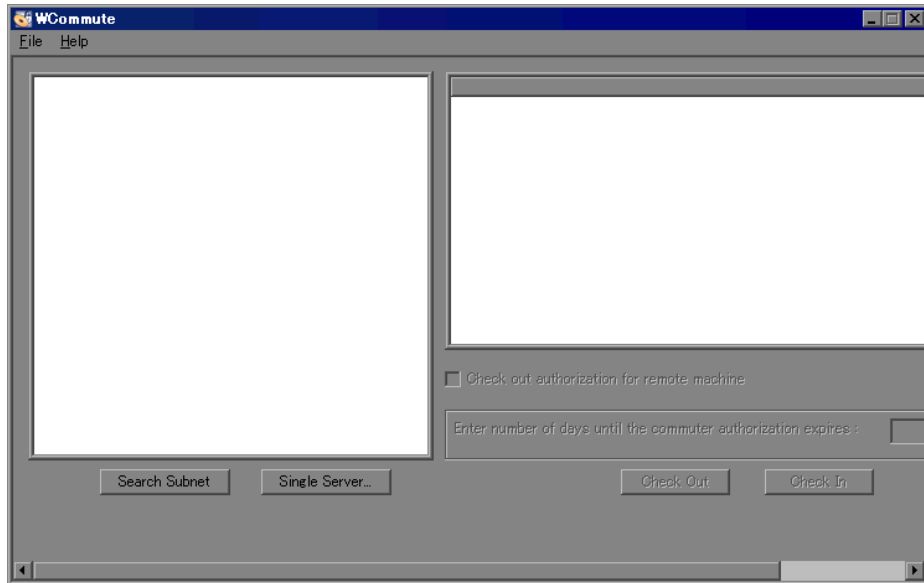
- ▶ **[Display locking code string]** ボタンをクリックし、ロッキング・コード全体を別のダイアログ・ボックスに表示します。そしてロッキング・コード文字列を範囲選択して右クリックし、**[コピー]** を選択して、Windows クリップボードにコピーします。次に電子メール・プログラムを開き、新しい電子メール・メッセージに文字列を貼り付けて、ローカル・ネットワーク・ユーザに送信します。
- ▶ **[E-mail address]** ボックスにローカル・ネットワーク・ユーザの電子メール・アドレスを入力し、**[Send]** をクリックします。このオプションは、電子メール・クライアントとして Microsoft Outlook Express が設定されている場合にのみサポートされます。

手順2：リモート・コンピュータのためのコンピュータ・ライセンスのチェック・アウト

ロッキング・コードを受信したローカル・ネットワーク・ユーザは、ライセンスをチェック・アウトし、電子メールでリモート・ユーザに転送できます。そのためには、ユーザは自分のコンピュータに QuickTest をインストールしておく必要があります。また、利用可能な QuickTest ライセンスを提供しているコンカレント・ライセンス・サーバにアクセスできる必要もあります。

リモート・コンピュータ用のコミュータ・ライセンスをチェック・アウトするには、次の手順を実行します。

- 1 < **QuickTest のインストール・フォルダ** > **¥bin** にある **WCommute.exe** ファイルを実行します。[WCommute] ダイアログ・ボックスが開きます。



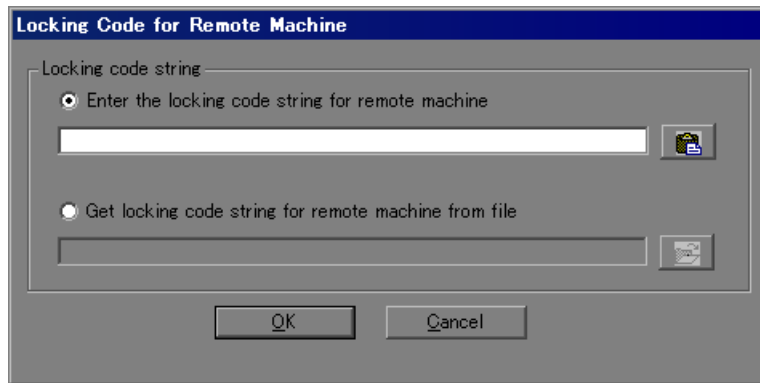
- 2 77 ページの「コミュータ・ライセンスのチェック・アウト」の手順2に従って、チェック・アウトするリモート・コミュータ・ライセンスからコンカレント・ライセンス・サーバを検索します。

コンカレント・ライセンス・サーバごとに、チェック・アウト可能なコミュータ・ライセンスのリストが表示されます。

- 3 チェック・アウトするライセンスを選択します。
- 4 [**Check out authorization for remote machine**] チェック・ボックスを選択します。
- 5 [**Enter the number of days until the authorization expires**] ボックスで、ライセンスをチェック・アウトする最大日数を指定します（最大で 30 日まで）。

注：リモート・コンピュータのライセンスをチェック・アウトすると、チェック・インできなくなり、指定した日数だけ使用中の状態となります（他のユーザが利用できません）。そのため、必要な最低日数を指定するようにします。

- 6 [Check Out] をクリックします。[Locking Code for Remote Machine] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 7 次に示すいずれかの方法で、リモート・ユーザからの電子メールで受け取ったロッキング・コードを入力します。

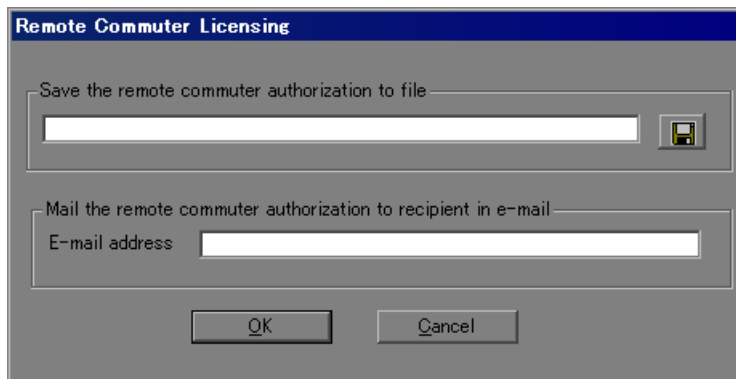


- ▶ ロッキング・コードが、受け取った電子メールの本文に記載されていた場合は、そのロッキング・コードを Windows クリップボードにコピーします。[Locking Code for Remote Machine] ダイアログ・ボックスで、[**Enter the locking code string for remote machine**] を選択し、[**Paste from clipboard**] ボタンをクリックします。



- ▶ ロッキング・コードが電子メールの添付ファイルとして送信されてきた場合は、その添付ファイルを保存し、[**Get locking code string for remote machine from file**] を選択します。[**Load**] ボタンをクリックします。ロッキング・コードが記載されたファイルを選択し、[**開く**] をクリックします。

- 8 [OK] をクリックします。[Remote Commuter Licensing] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 9 次のいずれかの方法で、リモート・ユーザにコミュータ・ライセンスを送信します。



- ▶ [Save the commuter authorization to file] ボタンをクリックし、ロッキング・コードをファイルに保存します。ファイルの名前と場所を指定し、[Save the commuter authorization to file] をクリックして、[OK] をクリックします。新しい電子メール・メッセージにファイルを添付し、リモート・ユーザに送信します。
- ▶ [E-mail address] ボックスに、リモート・ユーザの電子メール・アドレスを入力します。[送信] をクリックし、[OK] をクリックします。このオプションは、電子メール・クライアントとして Microsoft Outlook Express が設定されている場合にのみサポートされます。

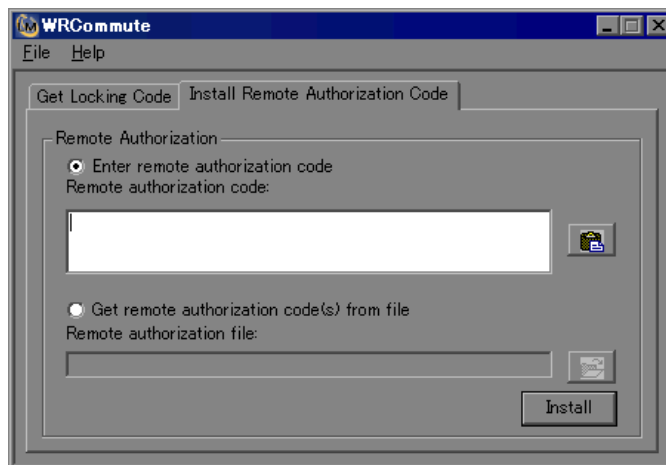
手順 3：リモート・コンピュータでのコミュータ・ライセンスのインストール

コミュータ・ライセンスをリモートで取得する最後の手順は、ネットワーク・ユーザによって送信されたライセンスをコンピュータにインストールすることです。

リモート・コンピュータにコミュータ・ライセンスをインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 コンピュータに管理者権限でログインしていることを確認します。
- 2 < QuickTest のインストール・フォルダ > %bin にある WRCcommute.exe ファイルを実行します。[WRCcommute] ダイアログ・ボックスが開きます。

3 [Install Remote Authorization Code] タブをクリックします。



4 ネットワーク・ユーザが電子メールで送ってきたコンピュータ・ライセンスを次のようにして入力します。

- ▶ コミュータ・ライセンスが、受け取った電子メールの本文に記載されていた場合は、そのコンピュータ・ライセンスを Windows クリップボードにコピーします。[WRCCommute] ダイアログ・ボックスの [Install Remote Authorization Code] タブで、[Enter remote authorization code] を選択し、[Paste from clipboard] ボタンをクリックします。



- ▶ コミュータ・ライセンスが電子メールの添付ファイルとして送信されてきた場合は、その添付ファイルを保存し、[Get remote authorization code(s) from file] を選択します。[Load] ボタンをクリックします。ロッキング・コードが記載されたファイルを選択し、[開く] をクリックします。



5 [Install] をクリックします。新しいライセンス・コードがコンピュータにインストールされます。

手順 4：リモート・コンピュータでのライセンスの種類の変更

QuickTest を開き、ライセンスの種類をコンカレントからシートに変更します。コンピュータ・ライセンスを使用するには、ライセンスの種類を変更後に表示される確認メッセージで [いいえ] をクリックします。詳細については、71 ページ「ライセンス情報の変更」を参照してください。

注：リモート・コンピュータ・ライセンスは使い終わってもコンカレント・ライセンス・サーバにチェック・インできません。そのままリモート・コンピュータ上で期限切れになります。オフィスに戻ってネットワークに再接続したら、ライセンスの種類をシートからコンカレントに変更する必要があります。詳細については、71 ページ「ライセンス情報の変更」を参照してください。

QuickTest ライセンスの検証

ライセンス検証ユーティリティは、QuickTest Professional のライセンス文字列をデコードして検証します。これによって、トラブルシューティングを目的として、ライセンス情報およびライセンス検証情報の表示とコピーを行えるようになります。

ライセンス検証ユーティリティにより次の操作が行われます。

- ▶ ライセンス文字列をデコードし、ライセンスに関する重要な情報を取得します。詳細については、91 ページ「ライセンス情報」を参照してください。
- ▶ あらかじめ定義されているチェック項目に基づいてライセンスを検証します。詳細については、92 ページ「検証のチェック」を参照してください。

必要な場合は、デコードおよび検証の結果をクリップボードにコピーできます。詳細については、92 ページ「クリップボードへのライセンス検証結果のコピー」を参照してください。

ライセンスのデコードおよび検証を行うには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] > [プログラム] > [QuickTest Professional] > [Tools] > [License Validation Utility] を選択します。



- 2 [ライセンス キー] ボックスで、デコードおよび検証するライセンス・コードを入力します。QuickTest コンピュータ上にインストール済みのライセンス・コードは、**Iservrc** ファイルにあります。このファイルの場所は、**Iservrc** 環境変数によって指定されます。

ヒント:

- ▶ ライセンス・コードを入力するときには、ライセンス・コードの末尾に#文字が挿入されていることを確認してください。欠落している場合は、[**ライセンス検証結果**]領域にエラーがレポートされます。#はライセンス・コードの末尾を示すため、#文字の後のすべての文字列はライセンス検証ユーティリティで無視されます。
 - ▶ 環境変数で **lservrc** ファイルのパスを見つけるには、[**マイ コンピュータ**]を右クリックして [**プロパティ**] を選択します。[システムのプロパティ]ダイアログ・ボックスで [**詳細設定**] タブをクリックしてから [**環境変数**] をクリックします。LSERVRC 変数の [**環境変数**] ウィンドウの [**<ユーザー>のユーザー環境変数**] ボックスにパスが表示されます。
例 : C:\Program Files\Common Files\HP\License Manager\lservrc。
-

3 [**検証**] をクリックします。ライセンス文字列がデコードされます。

ライセンス情報が [**ライセンス情報**] 領域に表示されます。詳細については、91 ページ「ライセンス情報」を参照してください。

検証の結果は、[**ライセンス検証結果**] 領域に表示されます。詳細については、92 ページ「検証のチェック」を参照してください。

4 必要な場合、[**コピー**] をクリックしてクリップボードに情報をコピーします。コピーされた情報には、現在のコンピュータのロッキング・コード、デコードされたライセンス文字列、およびデコードと検証の結果が含まれています。詳細については、92 ページ「クリップボードへのライセンス検証結果のコピー」を参照してください。

5 [**閉じる**] をクリックしてユーティリティを閉じます。

ライセンス情報

デコード操作の結果には、ライセンスについての次の情報が含まれます。

注：この操作で提供される情報の一部は、HP ソフトウェア・サポートのみを対象としているため、ここでは説明しません。

- ▶ **機能名：**ライセンスの作成時に指定した QuickTest 機能名です。
- ▶ **機能のバージョン：**ライセンスの作成時に指定したライセンスのバージョンです。これは QuickTest Professional のバージョン番号ではありません。
- ▶ **シート/コンカレント：**ライセンスの種類です。インストールされているコンピュータに固有のシート・ライセンス、または、複数の QuickTest ユーザによって使用される現在のライセンス・サーバを参照するコンカレント・ライセンスです。
- ▶ **試用/通常：**ライセンスの種類です。**試用**ライセンス（一定期間内のみ使用できる評価版ライセンス）、または**通常**ライセンスです。
- ▶ **試用日数：**試用ライセンスにのみ適用されます。試用期間終了までの日数が指定されます。日数は、QuickTest のコア・コンポーネントがインストールされた日付から起算されます。
- ▶ **ロッキング・コード：**ライセンスの作成時に指定したロッキング・コードです。このコードにより、QuickTest がインストールされているコンピュータが一意に識別されます。
- ▶ **クロック不正変更：**QuickTest がインストールされているコンピュータで不正に日付が変更された形跡があるかないかに基づいて、ライセンス発行の可否を示します。
- ▶ **コンピュータ・ライセンス：**コンピュータ・ライセンスがサポートされているかどうかを示します。コンピュータ・ライセンスにより、QuickTest コンカレント・ライセンス・サーバへ接続中に QuickTest Professional が使用できるようになります。コンピュータ・ライセンスは、コンカレント・ライセンスと組み合わせた場合にのみ使用できます。詳細については、75 ページ「コンピュータ・ライセンスの使用」を参照してください。

検証のチェック

ライセンス検証ユーティリティによって次の検証チェックが行われます。

- 1 QuickTest 機能名は既存の機能と一致するか。
- 2 ライセンスのバージョンは既存のバージョンのいずれかと一致するか。
- 3 ロッキング・コードは、QuickTest がインストールされているコンピュータのロッキング・コードと一致するか。
- 4 ライセンス文字列で指定されている試用期間は終了していないか。
- 5 ライセンスはコンカレント・ライセンスの場合、コンピュータ・ライセンスがサポートされているか。

クリップボードへのライセンス検証結果のコピー

場合によって、このユーティリティが提供する情報のコピーが必要になることがあります。たとえば、HP ソフトウェア・サポートにこの情報を転送しなければならないことがあります。

検証操作の完了後、[コピー] ボタンをクリックして、クリップボードに情報をコピーします。そして、必要に応じて情報を貼り付けます。

コンカレント・ライセンスに関する問題のトラブルシューティング

特定の状況では、QuickTest Professional をライセンス・サーバに接続できず、ライセンス・エラー・メッセージが開きます。

次のうちの1つまたは複数がエラーの原因となっているかどうか確認します。

- ▶ 93 ページ「サーバとクライアント・コンピュータがネットワーク接続されていない」
- ▶ 94 ページ「ライセンス・サーバが実行されていない」
- ▶ 94 ページ「ライセンスがライセンス・サーバにインストールされていない」
- ▶ 95 ページ「ライセンス・キー・ファイル (lservrc) がサーバに見つからない」
- ▶ 95 ページ「ライセンス・サーバが、最大数のユーザによって使用されている」
- ▶ 96 ページ「複数のバージョンのライセンス・サーバが実行されている」
- ▶ 96 ページ「クライアント・コンピュータがシート・ライセンスを使用するよう設定されている」
- ▶ 96 ページ「ライセンス・キーがライセンス・サーバのロッキング・コードと一致しない」
- ▶ 97 ページ「クライアント・コンピュータがサーバ・コンピュータのライセンス・キーを特定できない」
- ▶ 98 ページ「LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数が設定されていない」
- ▶ 98 ページ「LSERVRC システム変数がクライアント・コンピュータに設定されている」
- ▶ 98 ページ「クライアント・コンピュータが VPN ソフトウェア経由で接続されている」

サーバとクライアント・コンピュータがネットワーク接続されていない

クライアントとサーバ・マシン間のネットワーク接続は、コマンド・プロンプト・ウィンドウでライセンス・サーバ・マシンに ping を実行することによって確認できます。

次に例を示します。c:¥ ping <ライセンス・サーバ名>

ping コマンドから応答がない、または応答がタイムアウトになる場合は、ネットワークに問題がある可能性があります。必要に応じて、コンピュータ管理者またはネットワーク管理者に問い合わせてください。

ライセンス・サーバが実行されていない

ライセンス・サーバ・サービスを起動または再起動する必要があります。

ライセンス・サーバ・サービスを起動または再起動するには、次の手順を実行します。

- 1 コントロール・パネルを開きます（[スタート] > [設定] > [コントロールパネル]）。
- 2 [サービス] を選択します。

注： Windows 2000 など、オペレーティング・システムによっては、サービス・ユーティリティはコントロール・パネルの [管理ツール] セクションにあります。

- 3 **SentinelLM** サービスを選択します。
- 4 [サービスの開始]（または [サービスの再起動]）をクリックするか、右クリックして表示されるメニューから [開始]（または [再起動]）を選択します。

ライセンスがライセンス・サーバにインストールされていない

WlmAdmin ユーティリティを使用して、ライセンスがライセンス・サーバにインストールされていることを確認します。WlmAdmin ユーティリティの詳細については、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』の「ユーティリティ」の章を参照してください。

ライセンス・サーバでライセンスを検査するには、次の手順を実行します。

- 1 QuickTest Professional インストール DVD の **LicenseServer\utils** フォルダにある **SrvUtils.exe** を実行します。
- 2 **WlmAdmin** を選択します。
- 3 ライセンス・サーバの名前を定義したサーバとして入力します。
- 4 ライセンス・サーバの分岐を展開してみます。

ライセンス・キー情報が表示されなければ、インストールしたライセンスが無効であるか、ライセンス・キー・ファイル (lservrc) が見つかりません。ライセンス・キー情報が表示されれば、インストールしたライセンスは有効です。ライセンスがすべて使用中であるかどうかは、ライセンスを選択して、WlmAdmin ユーティリティの [Statistics] 表示枠を調べることで確認できます。

ライセンス・キー・ファイル (lservrc) がサーバに見つからない

lservrc ファイルは次のディレクトリになければなりません。

<ドライブ>¥Program Files¥Common Files¥SafeNet Sentinel¥Sentinel LM Server¥WinNT

ファイルがこの場所になければ、ライセンス・サーバはライセンスを見つけることができません。ライセンス・サーバ・コンピュータでファイルを検索します。ファイルが見つかった場合は、正しいディレクトリに移動して、SentinelLM サービスを再起動します。ファイルが見つからない場合は、ライセンスがインストールされていません。

ライセンス・サーバが、最大数のユーザによって使用されている

- ▶ すべてのライセンスが使用中である場合、License Server Manager はライセンスがリリースされるまで別のライセンスを発行することができません。WlmAdmin ユーティリティを使用して、現在ライセンスを使用しているユーザを特定できます。QuickTest Professional インストール DVD の **LicenseServer¥utils** フォルダにある **SrvUtils.exe** を実行し、[WlmAdmin] を選択します。

WlmAdmin ユーティリティの詳細については、『**HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド**』の「**ユーティリティ**」の章を参照してください。

- ▶ QuickTest が予期せずに関閉じ、ライセンスを自動的にリリースしない場合があります。このような場合は、ライセンスのタイムアウトを待機するか、ライセンス・サーバを再起動します。

詳細については、HP ソフトウェア・セルフ・ソルブ技術情報 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document>) を参照してください (ナレッジ・ベースを使用するには、HP Passport ユーザとして登録し、サイン・インする必要があります)。ナレッジ・ベースで、次を検索します。

文書 ID 18428: "What happens if AQT/QTP crashes on a client machine while using a Floating license"

複数のバージョンのライセンス・サーバが実行されている

ライセンス・サーバは、1台のコンピュータに1つのバージョンだけがインストールされて実行されていなければなりません。複数のバージョンがある場合は、[プログラムの追加と削除]を使用して、すべてのライセンス・サーバのインスタンスをアンインストールします。次にライセンス・サーバ・ソフトウェアの最新バージョンをインストールし、ライセンス・コード・キーを再インストールします。

クライアント・コンピュータがシート・ライセンスを使用するように設定されている

コンカレント・ライセンスまたはシート・ライセンスの設定を確認して変更する方法の詳細については、71 ページ「ライセンス情報の変更」を参照してください。

ライセンス・キーがライセンス・サーバのロッキング・コードと一致しない

lsdecode.exe ユーティリティを使用して、ライセンス・キーのロッキング・コードを確認します。

ライセンス・キーのロッキング・コードを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 **lsdecode.exe** ユーティリティを QuickTest Professional インストール DVD の **LicenseServer¥utils** フォルダから **lservc** ファイルの場所 (<ドライブ>¥Program Files¥Common Files¥SafeNet Sentinel¥Sentinel LM Server¥WinNT) にコピーします。
- 2 **lsdecode.exe** ユーティリティを実行します。コマンド・プロンプト・ウィンドウがデコードされたキー情報と共に開きます。
ライセンス・キーのロッキング・コードが **Server locking code** 行に表示されます。
- 3 QuickTest Professional インストール DVD の **LicenseServer¥KeyInstallation** フォルダで **inst_key.exe** ユーティリティを実行します。
ライセンス・サーバ・コンピュータのロッキング・コードが「Welcome」画面に表示されます。

注：この手順はライセンス・サーバ・コンピュータで行います。ライセンス・サーバ・コンピュータにリモートからアクセスすると、無効なライセンス・コードが生成されます。

- 4 ライセンス・キーのロックング・コードとサーバ・コンピュータのロックング・コードを比較します。

ロックング・コードが一致しなければ、ロックング・コードが変更されている原因を特定する必要があります。オペレーティング・システムの再インストール、コンピュータ名の変更、動的 IP アドレスの使用、ロックング・コードのターミナル・セッションからの取得、あるいはライセンス・キーのターミナル・セッションからのインストールなどによって、ロックング・コードが変わることがあり、ライセンス・キーが無効になります。

ロックング・コードが変更された原因を特定したら、License Request を送信して新しいライセンス・キーを生成できます。

クライアント・コンピュータがサーバ・コンピュータのライセンス・キーを特定できない

WlmAdmin ユーティリティを使用して、クライアント・コンピュータのライセンスを確認します。WlmAdmin ユーティリティの詳細については、『**HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド**』の「**ユーティリティ**」の章を参照してください。

クライアント・コンピュータでライセンスを検査するには、次の手順を実行します。

- 1 QuickTest Professional インストール DVD の **LicenseServer\utils** フォルダにある **SrvUtils.exe** を実行します。
- 2 **WlmAdmin** を選択します。
- 3 ライセンス・サーバの名前を定義したサーバとして入力します。
- 4 ライセンス・サーバの分岐を展開してみます。

ライセンス・キーを特定できない場合は、UDP Port 5093 がクライアントとサーバ間でブロックされているか、サポートされていない NAT (Network Address Translation) をライセンス・サーバの IP アドレスが使用しています。必要に応じて、コンピュータ管理者またはネットワーク管理者に問い合わせてください。

詳細については、HP ソフトウェア・セルフ・ソルブ技術情報 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document>) を参照してください (ナレッジ・ベースを使用するには、HP Passport ユーザとして登録し、サイン・インする必要があります)。ナレッジ・ベースで、次を検索します。

- ▶ **文書 ID 18402** : "What is port 5093 in the license mechanism used for?"
- ▶ **文書 ID 41449** : "Does UDP port 5093 need to be bi-directional?"
- ▶ **文書 ID 18424** : "How to set up the License Manager for machines running on different subnets."

LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数が設定されていない

これらの変数の設定方法の詳細については、73 ページ「LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定」を参照してください。

LSERVRC システム変数がクライアント・コンピュータに設定されている

LSERVRC 変数はシート・ライセンス用に使われますが、QuickTest のインストール時にデモ・ライセンス用に作成されている場合があります。この変数がある場合は、ライセンス・サーバの場所を見つける際の妨げにならないように削除しなければなりません。

LSERVRC システム変数を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 デスクトップで [**マイ コンピュータ**] を右クリックして、[**プロパティ**] を選択します。
- 2 [**詳細設定**] タブを選択し、[**環境変数**] をクリックします。
- 3 [システム変数] リストに LSERVRC 変数がないか確認します。存在する場合は [**削除**] をクリックします。
- 4 [**OK**] をクリックしてウィンドウを閉じます。
- 5 クライアント・コンピュータを再起動して、変更を実装します。

クライアント・コンピュータが VPN ソフトウェア経由で接続されている

クライアント・コンピュータが VPN ソフトウェア経由で接続されている場合は、VPN が [**IPSec over UDP**] を使用するよう設定されていないことを確認します。設定されていると、サポートされない NAT (Network Address Translation) を使用するようネットワークが構成されます。

第4章

QuickTest Professional の保守とアンインストール

QuickTest Professional では、個々の機能をインストールおよびアンインストールできます。また、アドインを含むすべての QuickTest Professional のソフトウェアとファイルをアンインストールすることも可能です。破損した QuickTest Professional のインストールを修復することもできます。

注： 場合によって、QuickTest をインストールした後やインストール後に変更を加えた後に、コンピュータの再起動を求められることがあります。再起動を求められた場合は、できるだけ速やかにコンピュータを再起動することをお勧めします。システムの再起動を先延ばしにすると、QuickTest に予期しない動きが生じる可能性があります。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ QuickTest Professional の特定機能のインストールとアンインストール (100 ページ)
- ▶ QuickTest Professional のインストールの修復 (102 ページ)
- ▶ QuickTest Professional のアンインストール (103 ページ)
- ▶ QuickTest の設定の保存と復元 (105 ページ)

QuickTest Professional の特定機能のインストールとアンインストール

QuickTest Professional の DVD を使用して、特定の QuickTest Professional の機能をインストールまたはアンインストールできます。たとえば、QuickTest Professional と一緒に提供されるアドインやサンプル・アプリケーションをインストールあるいはアンインストールできます。

注：また、QuickTest Professional の個別の機能をインストールまたはアンインストールすることもできます。それには、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [アプリケーションの追加と削除] を選択し、QuickTest Professional に対応する [変更] ボタンをクリックします。

機能をインストールまたはアンインストールする手順は、カスタム・インストールの実行手順と似ています。次の手順で説明する画面の詳細については、20 ページ「QuickTest Professional のインストール」を参照してください。

注：QuickTest Professional の機能のアンインストールをする前に、50 MB 以上のハードディスクの空き容量があることを確認してください。

QuickTest Professional の機能をインストールまたはアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 DVD ドライブに QuickTest Professional の DVD を挿入します。DVD を挿入した DVD ドライブがローカル・コンピュータのドライブである場合、[QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウが開きます。

ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、DVD のルート・フォルダにある **setup.exe** をダブルクリックします。[QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウが開きます。

注：最初のインストールで使ったものと同じ QuickTest Professional のバージョンを使用しなければなりません。

2 [QuickTest Professional のセットアップ] をクリックします。[HP QuickTest Professional 10.00 セットアップ ウィザードへようこそ] が開きます。[次へ] をクリックして先に進みます。

3 [メンテナンスの種類] 画面が開きます。[変更] を選択し、[次へ] をクリックします。

4 [カスタム セットアップ] 画面で、アイコンをクリックしてメニューを表示し、機能をコンピュータにインストールする方法を選択します。機能に応じて次のオプションを選択できます。



▶ [ローカル ハード ドライブにインストールします。] 選択した機能をローカル・ハード・ディスク・ドライブにインストールします。



▶ [機能全体をローカル ハード ドライブにインストールします。] 選択した機能全体をローカル・ハード・ディスク・ドライブにインストールします。



▶ [機能全体をインストールしません。] 機能をインストールから除外し、QuickTest で使用できないようにします。

リスト内の項目を選択すると、機能の説明や、機能に必要なドライブの容量、または、機能をアンインストールした場合に解放される容量を表示できます。

[次へ] をクリックして先に進みます。

5 [インストールの確認] 画面で [次へ] をクリックします。[Installing HP QuickTest Professional 10.00 のインストール] 画面に、アプリケーションの変更の進捗状況が表示されます。

6 [インストールの完了] 画面が開きます。[完了] をクリックします。

注： QuickTest で使用するために前提条件のソフトウェアのある機能をインストールした場合は、機能のインストール後に [インストールの追加要件] ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については、36 ページ「インストールの追加要件ユーティリティの使用」を参照してください。

QuickTest Professional のインストールの修復

QuickTest Professional の DVD を使用して、前回の QuickTest Professional のインストールから無くなったり損傷したりしているファイルを置き換えることによって、既存の QuickTest Professional のインストールを修復できます。

注：また、QuickTest Professional の既存のインストールを修復することもできます。それには、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [アプリケーションの追加と削除] を選択し、QuickTest Professional に対応する [変更] ボタンをクリックします。

QuickTest Professional のインストールを修復するには、次の手順を実行します。

- 1 DVD ドライブに QuickTest Professional の DVD を挿入します。DVD を挿入した DVD ドライブがローカル・コンピュータのドライブである場合、[QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウが開きます。

ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、DVD のルート・フォルダにある **setup.exe** をダブルクリックします。[QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウが開きます。

注：インストールの修復に QuickTest Professional の DVD を使用するには、最初のインストールで使ったものと同じ DVD を使用しなければなりません。

- 2 [QuickTest Professional のセットアップ] をクリックします。[HP QuickTest Professional 10.00 セットアップウィザードへようこそ] が開きます。
- 3 [次へ] をクリックして先に進みます。[メンテナンスの種類] 画面が開きます。
- 4 [修復] を選択し、[次へ] をクリックします。次に [Confirm Repair] 画面で [次へ] をクリックします。[セットアップステータス] 画面に、修復プロセスの進行状況が表示されます。

注：修復プロセスの開始には多少時間がかかることがあります。その間、ウィザードが応答しなくなることがあります。最終的に [Run Setup] 画面が開き、修復プロセスが続けられます。

- 5 [インストールの完了] 画面で **[完了]** をクリックします。

QuickTest Professional のアンインストール

Windows コントロール・パネルの **[アプリケーションの追加と削除]** オプション、または QuickTest Professional の DVD を使用して、QuickTest Professional をアンインストールできます。

QuickTest Professional をアンインストールする前に、既存のカスタマイズ設定やレジストリ・キーを保存しておき、必要に応じて、新しいバージョンのインストール後にそれらを復元できます。詳細については、105 ページ「QuickTest の設定の保存と復元」を参照してください。

QuickTest をアンインストールする前に、50 MB 以上のハードディスクの空き容量があることを確認してください。

注：

- ▶ 100 ページ「QuickTest Professional の特定機能のインストールとアンインストール」で説明するように、QuickTest Professional の個別の機能をアンインストールできます。
 - ▶ Windows のコントロール・パネルの **[プログラムの追加と削除]** オプションを使って、QuickTest Professional の個々の Hotfix (パッチ) をアンインストールできます。
-

Windows コントロール・パネルの [アプリケーションの追加と削除] オプションを使用して QuickTest Professional をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [アプリケーションの追加と削除] を選択します。現在インストールされているプログラムのリストが開きます。
- 2 [QuickTest Professional] をクリックし、[削除] をクリックします。QuickTest Professional をアンインストールすることを確認するメッセージが表示されます。[はい] をクリックし、画面の指示に従って QuickTest Professional をアンインストールします。QuickTest Professional をアンインストールせずにコンピュータにインストールしたままにしておくには、[いいえ] をクリックします。

アンインストール・プログラムによって、コンピュータからすべての QuickTest Professional の（すべての QuickTest Professional アドインを含む）機能が削除されます。

QuickTest Professional の DVD を使用して QuickTest Professional をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 DVD ドライブに QuickTest Professional の DVD を挿入します。DVD を挿入した DVD ドライブがローカル・コンピュータのドライブである場合、[QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウが開きます。

ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、DVD のルート・フォルダにある **setup.exe** をダブルクリックします。[QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウが開きます。

注：最初のインストールで使ったものと同じ DVD を使用しなければなりません。

- 2 [QuickTest Professional のセットアップ] をクリックします。[HP QuickTest Professional 10.00 セットアップ ウィザードへようこそ] が開きます。
- 3 [次へ] をクリックします。[メンテナンスの種類] 画面が開きます。
- 4 [削除] を選択し、[次へ] をクリックします。[アンインストールの確認] 画面で [次へ] をクリックします。

アンインストール・プログラムにより、コンピュータからすべての QuickTest Professional の（すべての QuickTest Professional アドインを含む）機能が削除されます。

- 5 [削除の完了] 画面で **[完了]** をクリックします。

注： QuickTest Professional のアンインストールは、Microsoft Script Debugger や Microsoft NET Framework など、QuickTest Professional のインストールの一環としてインストールした HP 以外のアプリケーションをアンインストールしません。これらのアプリケーションは、**[コントロール パネル]** の **[プログラムの追加と削除]** ダイアログ・ボックスからアンインストールできます。

QuickTest の設定の保存と復元

QuickTest Professional 9.2 以前のバージョンからアップグレードする場合は、その前に以前のバージョンの QuickTest Professional をアンインストールする必要があります。Save and Restore ユーティリティを使用して、古いバージョンの QuickTest をアンインストールする前に既存のカスタマイズ設定やレジストリ・キーを保存しておき、新しいバージョンをインストールした後にそれらを復元できます。

Save and Restore Settings ユーティリティは、拡張用 **.xml** ファイルに手動で加えたカスタマイズを保存するのに特に便利です。

Save and Restore Settings ユーティリティによって保存されるファイルおよび設定の一覧については、107 ページ「保存されるファイルおよび設定」を参照してください。

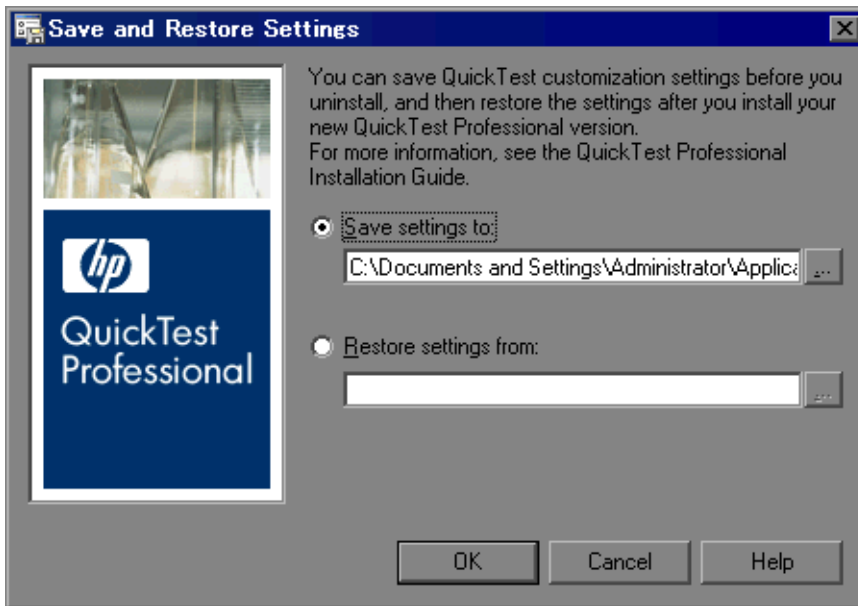
Save and Restore Settings ユーティリティは、テスト・フォルダのバックアップを取りません。アンインストール処理により、QuickTest テストは削除されますが、アンインストールの前にテスト・フォルダのバックアップ・コピーを作成できます。

既存の設定を保存するには、次の手順を実行します。

- 1 以前のバージョンの QuickTest をアンインストールする前に、QuickTest のインストール用 DVD のルートにある **SaveRestoreSettings.exe** ファイルを実行します。

注： QuickTest Professional のインストール後は、[スタート] > [プログラム] > [QuickTest Professional] > [Tools] > [Save and Restore Settings] から Save and Restore Settings ユーティリティを使用することもできます。

[Save and Restore Settings] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 [Save settings to] ラジオ・ボタン・オプションを選択し、QuickTest Professional の既存のカスタマイズ設定、レジストリ・キー、およびテストを保存する .zip ファイルの場所と名前を入力します。
- 3 [OK] をクリックして設定を保存します。

保存した設定を復元するには、次の手順を実行します。

- 1 QuickTest Professional のインストール後、[スタート] > [プログラム] > [QuickTest Professional] > [Tools] > [Save and Restore Settings] を選択します。[Save and Restore Settings] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [Restore settings from] ラジオ・ボタン・オプションを選択し、QuickTest Professional の既存のカスタマイズ設定、レジストリ・キーが保存されている .zip ファイルの場所と名前を入力します。
- 3 [OK] をクリックして設定を復元します。

保存されるファイルおよび設定

Save and Restore Settings ユーティリティでは、QuickTest Professional のインストール・フォルダ内の **bin** および **dat** フォルダにある特定のファイルと、QuickTest の特定のレジストリ・キーが保存されます。

bin フォルダのファイル

< QuickTest Professional のインストール・フォルダ > %bin フォルダにある次のファイルが、Save and Restore Settings ユーティリティによって保存されます。

- ▶ Mic.ini
- ▶ Qtreport.ini

dat フォルダのファイル

< QuickTest Professional のインストール・フォルダ > %dat フォルダにある次のファイルは、存在すれば（インストールされているアドインによって異なります）、Save and Restore Settings ユーティリティによって保存されます。

関連するアドイン	ファイル名
Siebel	SiebelConfiguration.xml*
Siebel	SiebelEventConfiguration.xml*
Siebel	SiebelExceptionConfig.xml*
Siebel	SiebelPatterns.xml*
Siebel	CASConfiguration.xml*
Siebel	CASEventConfiguration.xml*

関連するアドイン	ファイル名
SAP	PropertyPatternConfigSAP.xml*
SAP	SAPConfiguration.xml*
SAP	SAPLearnFilter.xml*
SAP	SapEventConfiguration.xml*
PeopleSoft	PSConfiguration.xml*
PeopleSoft	PSEventConfiguration.xml*
PeopleSoft	PSLearnFilter.xml*
.NET	SwfConfig.xml
.NET	PatternsData.xml
.NET	WebFormsConfiguration.xml*
.NET	WebFormsEventConfiguration.xml*
.NET	WebFormsLearnFilter.xml*

注： アスタリスクの印が付いているファイルは、ユーザによって変更が加えられている場合にのみコピーされます。変更が加えられていなければコピーされません。

レジストリ・キー

次のレジストリ・キーが Save and Restore Settings ユーティリティによって保存されます。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Mercury Interactive¥QuickTest Professional¥MicTest¥Packages¥TEAPackage